

373

96h

徵古館陳列品略解

同館農業館編

373-96h



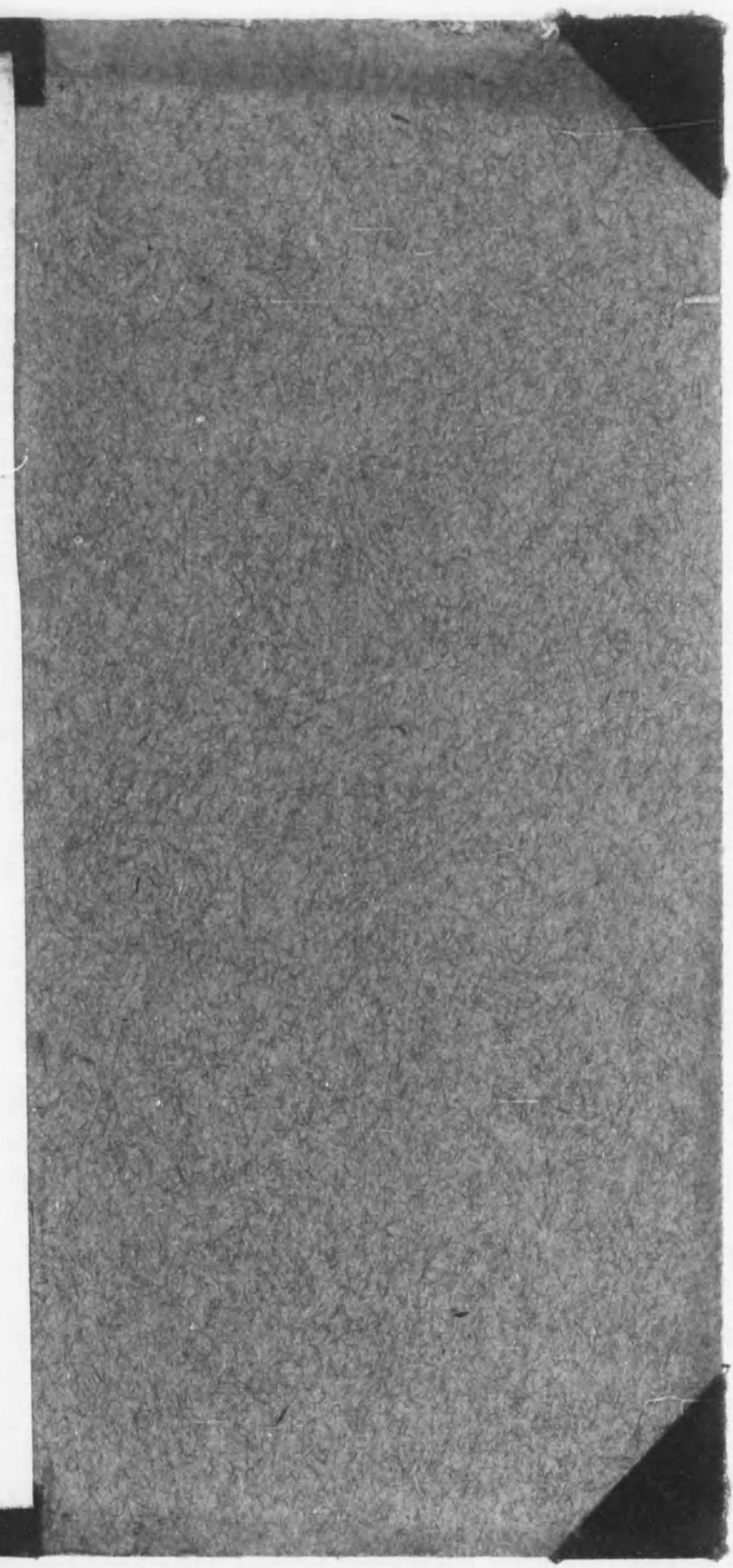
1200501449501



始



徵古館陳列品略解





徵古館陳列品略解

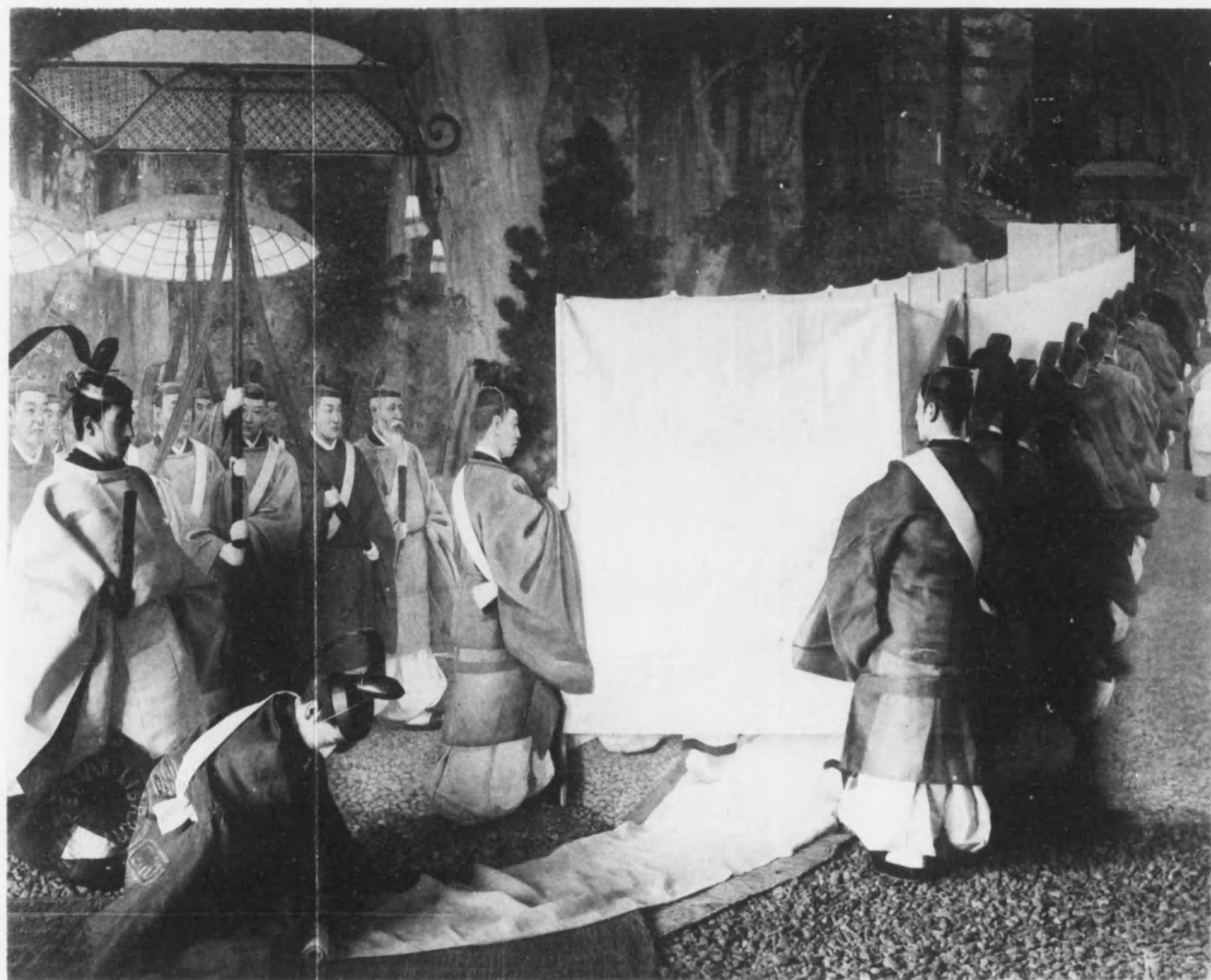


皇大神宮遷御式ノ圖

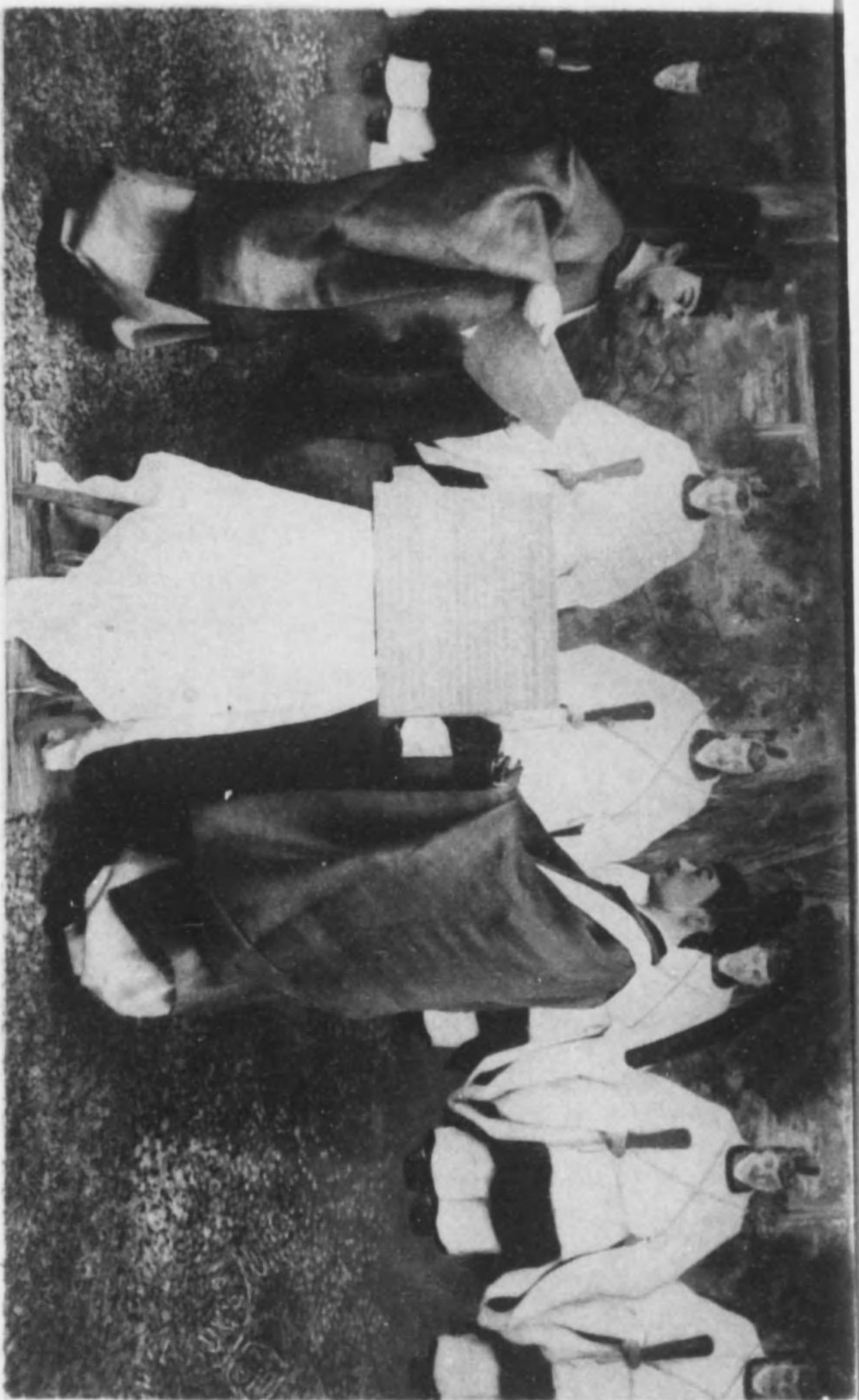


皇大神宮遷御式ノ圖





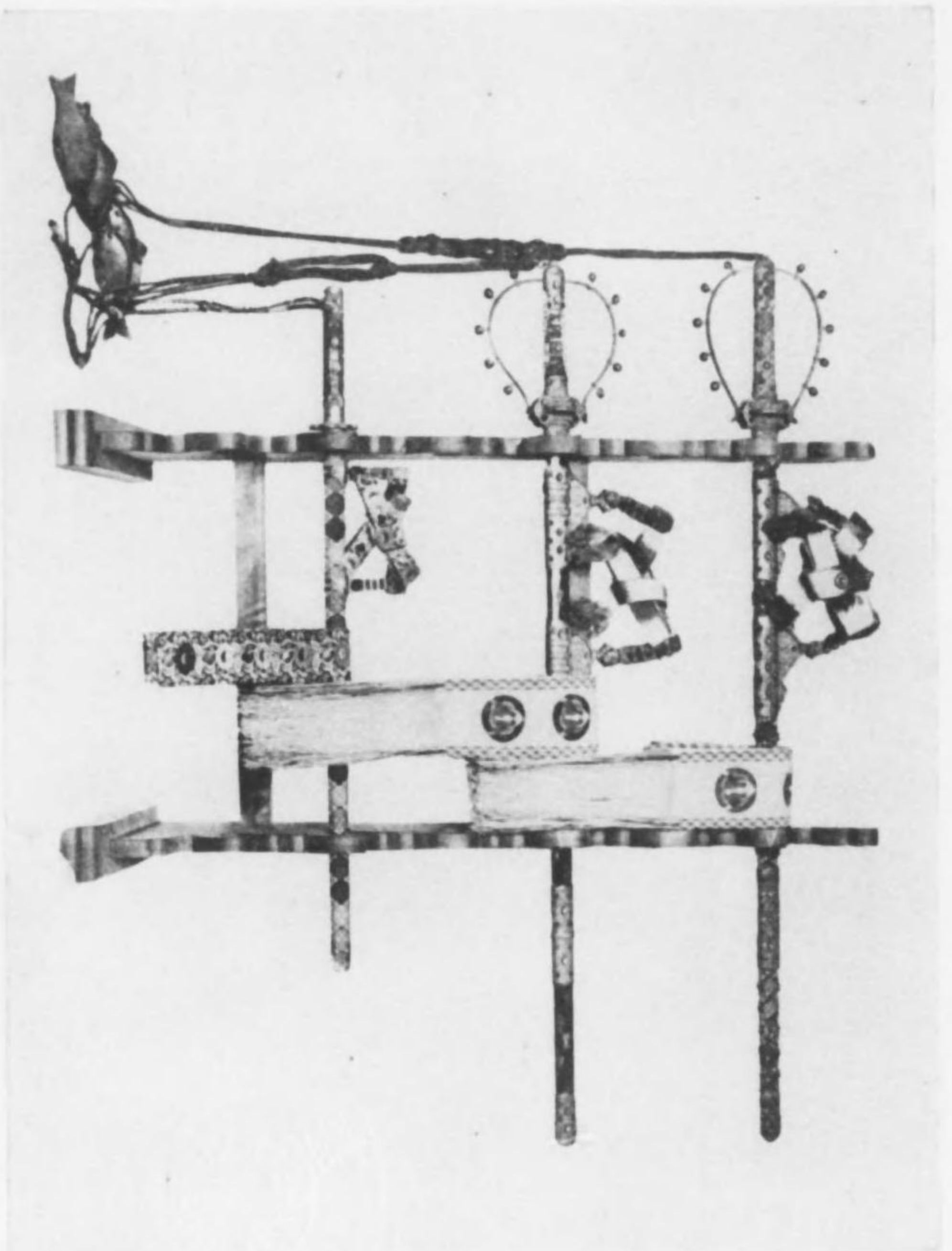
皇大神宮遷御式ノ圖



(二三三三) 圖之檢點帛幣宮遷御

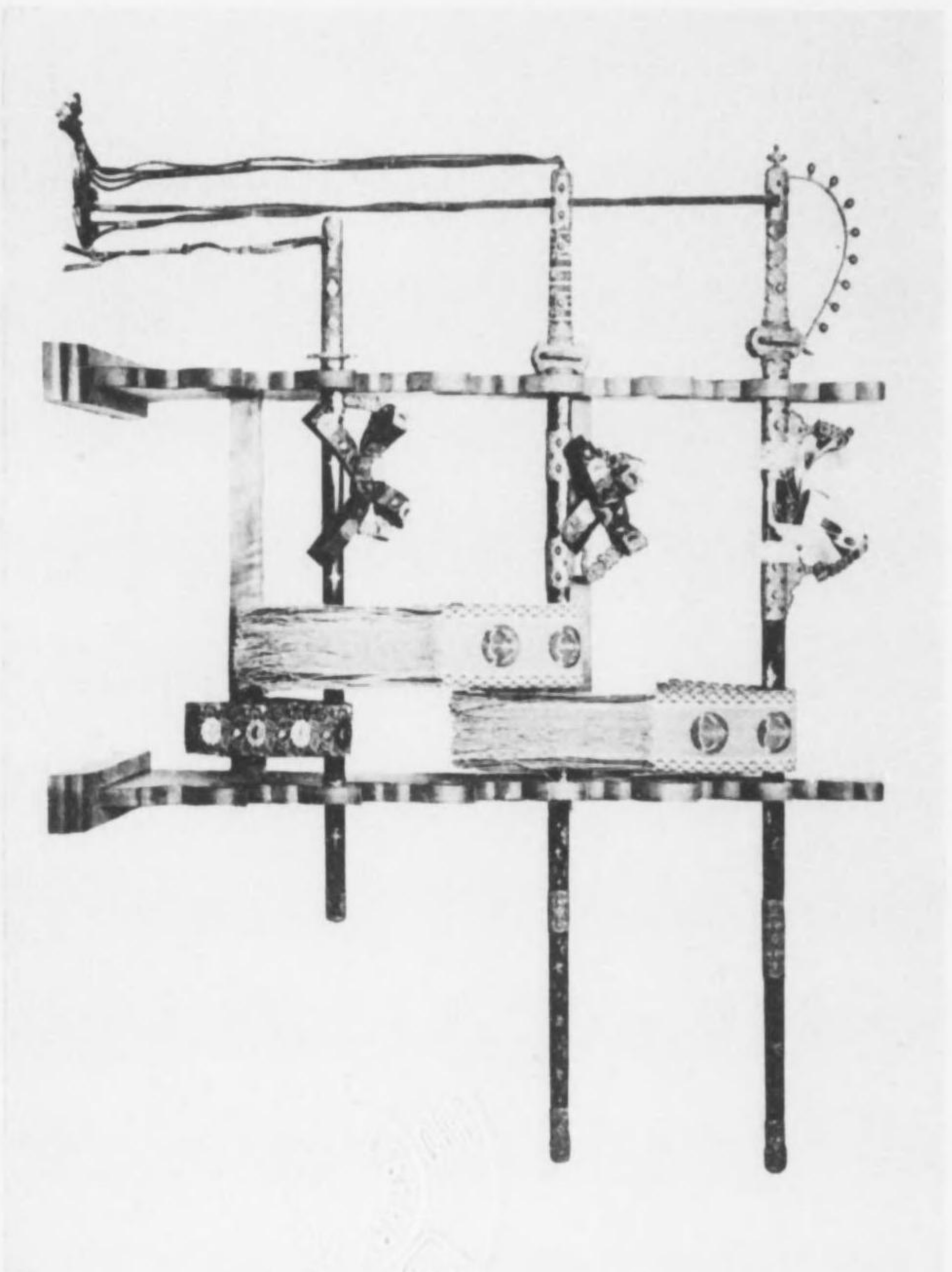
皇大神宮御料

- 玉纏御太刀 (一〇七四)
- 須加利御太刀 (一〇七五)
- 金銅造御太刀 (一〇七六)



豊受大神宮御料

- 第一御太刀 (二〇八九)
- 第二御太刀 (二〇九〇)
- 第三御太刀 (二〇九一)





(五三七二) 圖之拜參御宮內 卷繪幸行勢伊年二治明



料御皇天治明
(六八五二)「冬」袍御染櫛黄

第一至第...
 山田清波...
 中...
 吉...
 秀...
 臣...
 豊...
 朱...
 印...
 狀...
 明光寺文書
 一八二

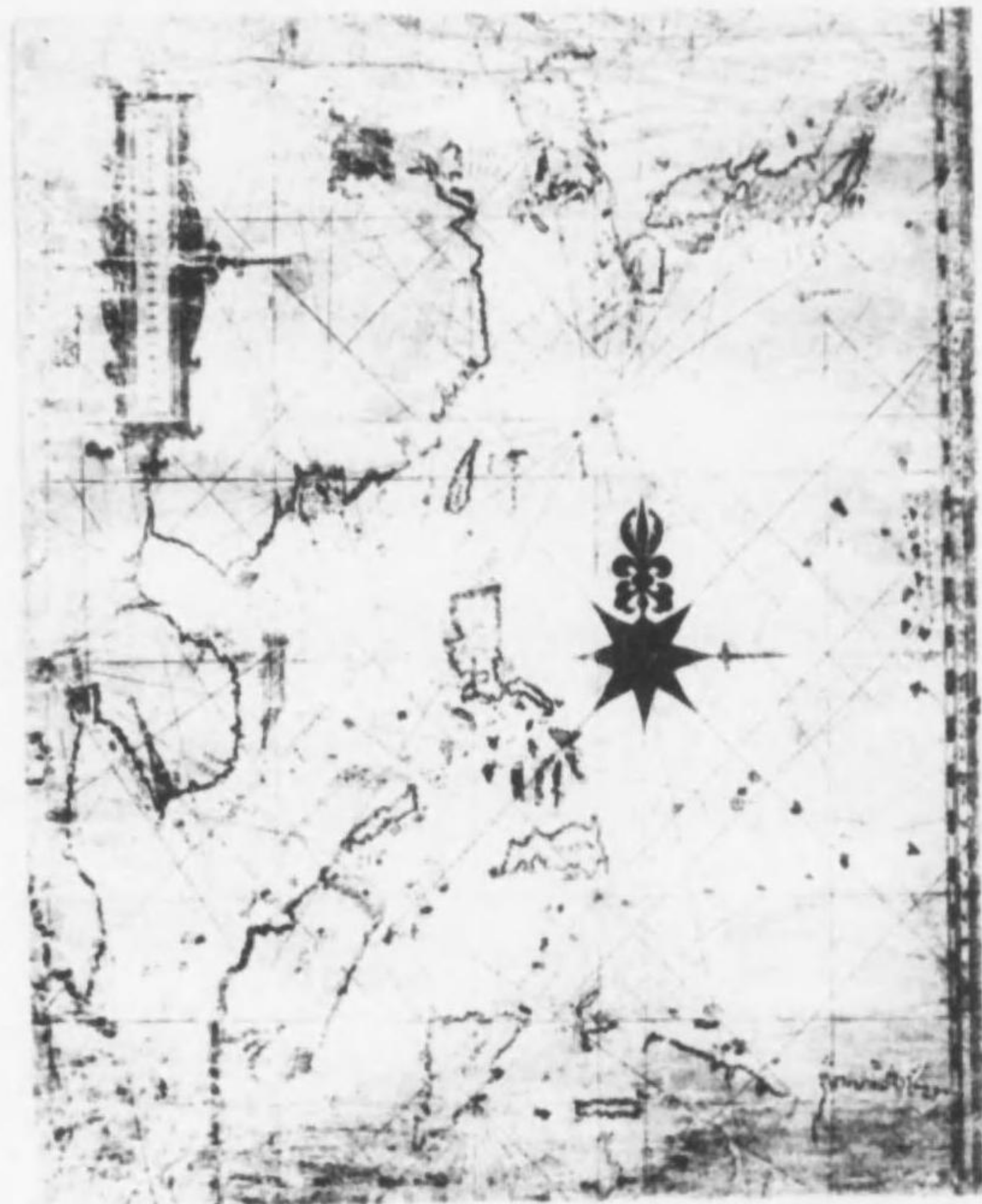
(書文寺明光) 狀印朱吉秀臣豊
一八二

月波上人勸進狀...
 勸進...
 上人...
 勸進...
 狀...
 明光寺文書
 九七

(書文寺明光) 狀進勸人上波月
九七

四百斛紅堂
 般之事
 右分國中流
 漆出後心下
 信後可也先
 詩不主和樂
 王几何何付
 宗平甚法左
 佛力不漢
 南在七、八、九

(書文家屋角) 狀印朱康家川德
 (四八一)



(書文家屋角) 圖海航
 (六七一)

373-96h.

凡 例

一、本編ハ徵古館ノ陳列品中ヨリ輯録シタルモノナリ。解説未ダ推敲ヲ盡サズ完成ヲ他日ニ期ス。

一、本編ハ紙數ニ制限アルヲ以テ陳列品全部ヲ輯載シ得ザルヲ遺憾トス。

一、本編ニ輯録ノ列品ト雖モ館内狹隘ノ爲一時ニ陳列シ得ザルヲ以テ、便宜時々陳列換ヲ行フコトアルベシ。

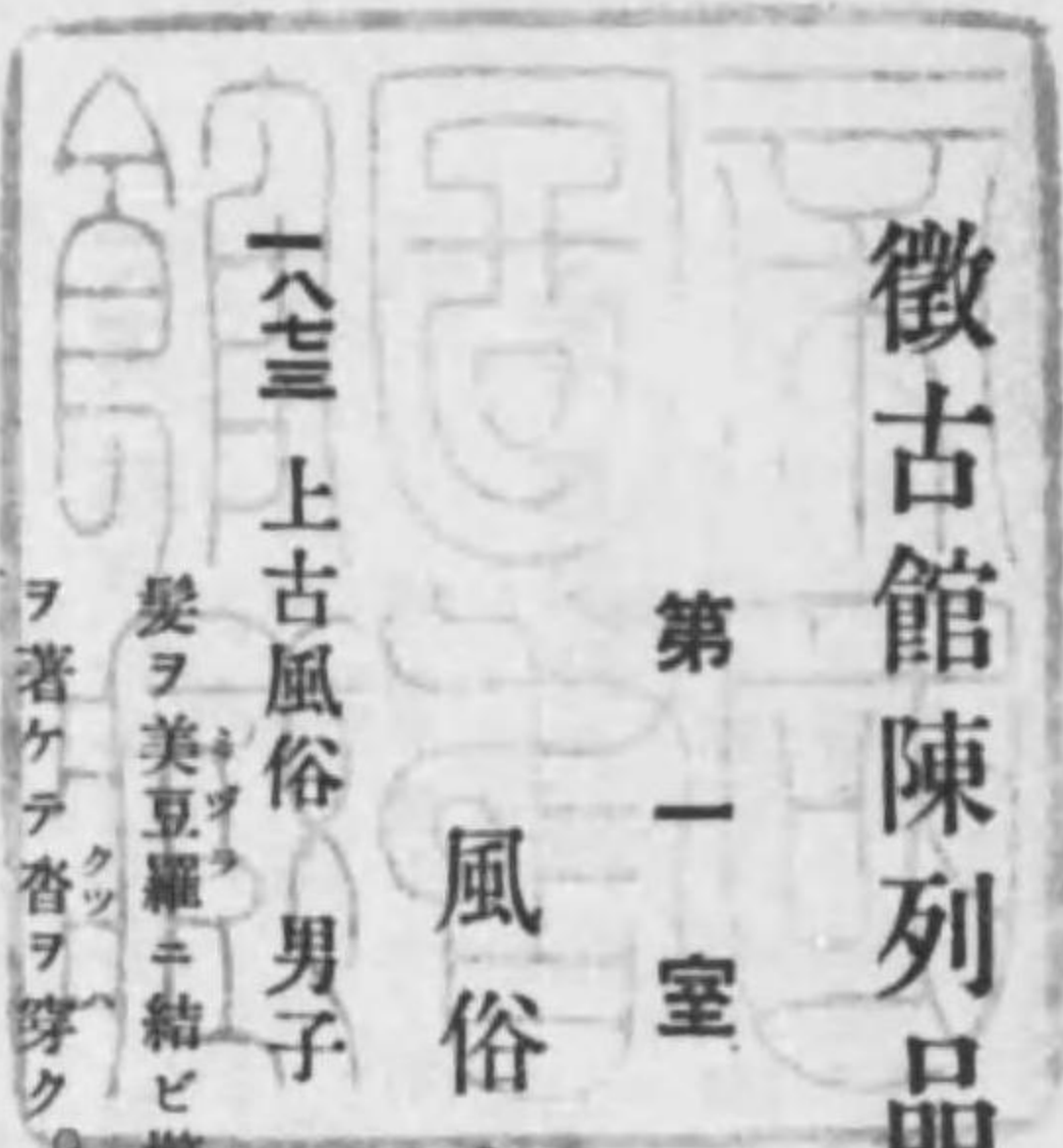
陳列排置

- 第一室 風俗人形、武器
- 第二室 武器、馬具、風俗人形
- 第三室 風俗人形、服飾
- 第四室 服飾、家什、調度、文房具、樂器、遊戲具、度量衡貨幣
- 第五室 神宮遷宮關係資料、輿車船舶
- 第六室 古文書、畫圖、典籍、金石文、石器時代遺物、上古時代遺物、神都史料
- 第七室 神宮關係資料
- 第八室 神宮寶物、神宮祭器祭具、神宮諸祭畫圖
- 第九室 神宮撤下御物

徵古館陳列品略解

第一室

風俗人形



一八七三 上古風俗 男子

佛教渡來以前ノ風
 髮ヲ美豆羅ニ結ビ櫛ヲ挿シ、耳輪及頸玉ヲ懸ケ、左衽ノ衣ニ袴ヲ穿キ、鈴劍ヲ著ケ、足結ヲナシ、襪ヲ著ケテ沓ヲ穿ク。腰ニハ縊帶ヲ以テ頭椎太刀ヲ佩キ、葛鞆ニ野矢ヲ盛リタルヲ負ヒ、左腕ニ鞆ヲ著ケ丸木弓ヲ携ヘ、所謂弓弭ノ調ヲ獲ントテ朝獵ニ出立ツ體ヲ示ス。

一八七四 上古風俗 女子 同前

髮ヲ頭頂ニ結束シテ後世ノ島田髷ノ如クシ、額櫛ヲ挿ス。耳輪頸玉男子ニ同ジ。手ニハ手玉ヲ懸ケ衣袴ヲ著シ、裳ヲ纏ヒ、領巾ヲ懸ケ、席上ニ座シテ前ニ麻笥ヲ置キ、杖ヲ持チテ續麻ヲ卷ク。所謂手末

ノ調ヲモノスル體。

一八五 奈良朝時代風俗 男子

五位文官 朝服 隋唐ノ風ニ倣ヒタル時

皂羅頭巾、淺緋袍、白袴、半臂ヲ著ケ、銀裝革帶ヲ以テ束ネ、白襪ヲ著ケ烏皮履ヲ穿キ、淺緋袋ヲ佩ビ牙笏ヲ把リテ立テル文官朝參ノ體ヲ示ス。

一八六 藤原時代風俗 男子

五位文官 束帶 前代ノ風俗漸ク化シテ日本式トナリタル時

垂纓冠、單大口袴、表袴、下襲、緋袍ヲ著シ、石帶ヲ以テ束ネ、魚體ヲ佩ビ、帖紙楡扇ヲ懷中シ、笏ヲ把リ、淺沓ヲ穿チテ歩マントスル體、以テ前代ノ朝服ノ變化セシヲ示ス。

一八七 藤原時代風俗 女子

典侍(正装)

髮ヲ結ゲ平額ヲ加ヘ釵子及ビ櫛ヲ挿ス、コレヲ寶髻ト稱シ古制ノ禮裝ナリ。袴、單、五衣、表衣、唐衣裳ヲ著ケ、帖紙ヲ懷中シ、手ニ楡扇ヲ翳シテ歩マントスルノ體。中古藤原時代以來上流女子ノ盛裝ヲ示ス。

一八八 中古風俗 賤夫旅行

折烏帽子ニ布直垂四布袴ヲ著シ、藁脛巾ニ草鞋ヲ著ケ、見世鞆掛ケタル腰刀ニ燈袋ヲ付ケタルヲ佩ビ、擔唐櫃ニ表差袋ヲ取付ケタルト、行器ニ鬘籠ヲ添ヘタルトヲ荷ヒ、蒲葵扇ヲ携ヘタル體。以テ當代旅行ノ困難ナルタメ必要ノ具ヲ携ヘタリシト、卑賤ノ風俗トヲ示ス。

一八九 鎌倉時代風俗 童 貴族

髮ヲ高ク上ゲ鬘ニテ結び、濃單袴、半尻ヲ著ケ、頭ニハ懸守ヲ懸ケ、淺沓ヲ穿キ、毬杖ヲ以テ毬ヲ打タントスルノ體。古代ノ遊戲ノ今日ニ類スルモノアルヲ示ス、藤原時代以來足利中世迄ノ風大凡此ノ如シ、

一八〇 鎌倉時代武裝 胴丸

引立烏帽子ニ鉢巻シ、鍔直垂ニ脛巾ヲ著ケ、双鞆ニ引手ノ片籠手ヲ差シ、胴丸ノ鍔ヲ著シ、二方白鍔形打タル兜ヲ戴キ、絲卷太刀ヲ佩キ、腰刀ヲ差シ、節影ノ征矢ヲ盛リタル逆頰籠ヲ負ヒ、二所籠ノ弓ヲ握リ、扇ヲ把リ、熊皮ノ貫ヲ穿キ、床几ニ懸リテ憩フ體、源平以來足利中世迄ノ將士大凡此ノ如シ。

一八一 足利末世武裝 當世具足

月代ヲ剃リタル髮ヲ亂シテ鉢巻シ、具足下著ニ小袴ヲ著シ、素懸威ノ具足ヲ著シ、兜ヲ高紐ニ懸ケ、茜色ノ指物ヲサシ、陣大小ヲ挿シ、右手ニ采配ヲ高く振り、左手ニ大身槍ヲ携ヘテ立チタル體、以テ前代ノ甲冑以下兵器ノ沿革ヲ知ラシム。

武器

二七 旗 模造

一 旒

原品石清水八幡宮舊藏源義家所用ト稱スルモノ、模造ニシテ旗竿ハ足利時代ノ式ニ據ル。

二六 突 棒

一本

二六 刺 又

一本

二六 袖 搦

一本

以上三種ヲ合セテ之ヲ三道具ト稱ス徳川時代ニ人ヲ捕フルニ用ヒタル兵器ナリ。

二八 振 杖

一本

棒ノ先ニ分銅及ビ鎖ヲ付ケ人ヲ捕フルニ用ヒシ奇道具ノ一ナリ。

二八 三 鍬形馬印

一本

馬印ハ主將ノ馬側ニ建テ、其ノ居所ヲ示ス標ニシテ足利時代ノ中頃ヨリ用ヒタリ。

二八 三 鍬

一 筋

古代ノ鍬ノ變化シタルモノニシテ、源平時代ニハ手鍬行ハレ、後ニハ手鍬モ廢シテ、遂ニ一種之ニ類スルモノヲ造リ出シ、遠クニ突キ遣ルヨリ鍬ト名ヅケタルモノニシテ、南北朝時代ヨリ書中ニ見ユ。爾來多年ノ研究ヲ積ミテ種々ノ變形ヲ生ジタリ。

二九 鍬 形 鍬

一 筋

二九 鍬 鍬

一 筋

三〇 十 文字 鍬

一 筋

廣瀬忠三郎氏出品

石谷峻三氏出品

二九八 絲イト 纏マキ 鉞ホコ 正倉院御物模造

一〇三七 大身オホミ 鎗ヤリ 銘兼常 藤堂高虎ノ家臣藤堂仁右衛門高刑關ケ原ノ役ニ於テ大谷吉隆ノ驍將湯淺五助ト一騎打ノ際使用シタルモノト傳フ。

二九七 手テ 鎗ヤリ 傳豐公ヨリ宇喜多秀家拜領

七三三 片カタ 鎌カマ 鎗ヤリ 一筋 石谷峻三氏出品

二七 直ス 鎗ヤリ 一筋 杉原光雄氏出品

一五 笹ササ 穂ホ 鎗ヤリ 一筋 同 上

一三 大身オホミ 鎗ヤリ 一振

二五三 薙ナギ 刀ナガ 起原詳カナラザレドモ奥州後三年記ニ其名見エ、源平時代戰場ニ用ヒタルコト諸書ニ見エタリ。元龜天正以後ニ至リテハ主トシテ僧侶婦人ノ用トナリ、徳川時代ニハ特ニ婦人ノ武器トナレリ。

(一) 矢

十二種

トガリヤ、カフヤ、ヒトアジントウ、カズジンドウ、ヤクイジンドウ、ツノギ、ノヂシヤ、サシヤ、ククリヤ、マトヤ、シシノイスイヒキ、サシジロ、尖箭、鳴箭、一手神頭、數神頭、矢代神頭、角木、野差矢、差矢、繰矢、的矢、眞犬射引目、産所引目、征矢、野矢

尖矢鳴箭矢ハ箠ノ表指ニシテ大事ノ物ヲ射ルニ用ヒ、神頭ハ又矢頭トモ書ス、草鹿アリノ丸物等ノ的ヲ射ルニ用ヒ、矢代神頭ハ矢代ヲ振ルニ用ヒ、角木ハツクラ巻藁等ヲ射ルニ用ヒ、差矢繰矢等ハ遠距離ノニ用ヒ、引目ハ笠懸、犬追物等ニ用ヒ、又産所ノ魔障ヲ退治スルニ用ヒ、征矢ハ箠ノ中差ニシテ戰爭ニ用ヒ、野矢ハ狩獵ニ用ヒタリ。

七四 打ウチ 根ネ 一本

徳川時代ニ尻籠ニ入レ又ハ駕籠ノ内、坐右等ニ置キテ不慮ニ備ヘシモノ。

七六〇 鍬セシ 三種

雁股 銘黒田越前根鍛冶。楓葉 銘高來同上。鎗 無銘。

七七 白猪空穗

狩獵又ハ旅行等ニ箭ヲ損セザランガ爲メニ用ヒシモノニシテ足利時代ニハ騎馬ノ人ハ專ラ平時ニ之ヲ用ヒタリ。

一腰

二七九 塗空穗

矢ノ雨ニ濡レ物ニ觸レテ損ズルヲ防グタメ、盛リテ背ニ負フ具。

一腰

二九八 行膝

鹿夏毛。乗馬又ハ騎射用

一具

八三 物射杏

乗馬又ハ騎射用

一足

三三 綾蘭笠

模造

一蓋

綾蘭笠ハモト旅行狩獵等ニ用ヒタルモノ。コノ原品ハ奈良手向山神社藏田樂用ノモノニヨリ徳川時代ニ模造シテ流鏑馬ニ用ヒタルモノナリ。

二九〇 決拾

鹿革製諸躰

一具

弓ヲ射ルトキ手指ヲ傷メザル爲ニ用フル手袋ナリ。

九二 決拾 四掛

一隻 御巫清白氏出品

二九三 壺胡篋

胡篋ノ一種ニシテ儀式、節會等ノ警固ニ近衛ノ武官ノ帶アルモノナリ。

一腰

二九六 平胡篋

五位武官ノ儀仗用

一腰

山科流平胡篋箭水晶管金銅鐵白羽落矢。紅梅鳥子間塞附屬。

八二 柳篋

(腰紐缺)

一腰

篋ハ矢ヲ盛リテ背ニ負フ器。平胡篋ヨリ轉ジタルモノ。其制ニヨリテ逆頰篋、竹篋、葛篋、草篋、柳篋、指篋等ノ名アリ。

八三 逆頰篋

武家式正ノ篋ニシテ獸皮ノ毛列ヲ逆様ニ張りタレバ此名アリ、多クハ主將ノ用ナリ。

一腰

〇一〇 指篋

(腰緒缺)

一腰

二九七 塗 弓 五位武官ノ儀仗用。棟縹弓絃 一張

一七四 鐵 砲 稻富一夢在銘 一挺

銀象嵌ニテ「一ある目あてを知らてみな人のしとろもとろにはなす鐵砲」眞鍮ニテ「一夢判」トアリ
一夢ハ豊臣時代ノ有名ナル銃手ニシテ、稻富流ノ祖ナリ。

一〇一八 獅子石火矢 目方六貫二百八十匁 一門 藤堂高宣氏出品

慶長二年藤堂仁右衛門朝鮮ニテ分捕シモノト傳フ。

三〇〇 火 繩 挾 火繩添フ 一個

大砲發射用

一〇一五 柳 生杖 竹製、中身鐵棒仕込 一本 秋田氏出品

荒木又右衛門、柳生飛騨守ヨリ拜領。初メ藤堂歸雲秘藏セシヲ明治十五年頃秋田家ノ懇望ニヨリ譲與

九〇 鞆 上古風俗人形ニ著ク 一枚 御巫清白氏出品

革ニテ作り、内ヲ空シクシテ彈力アラシメ、左臂ニ著ケテ、ユミツル弦ノ手玉釧等ニ觸ル、ヲ防グ又一説ニハ木弓ニハ之ヲ用ヒテ矢勢ヲ助クト云フ。

二四八 指 物 小旗(足利時代末人形ニ用フ) 一本

小旗又ハ種々ノ飾物ヲ具足ノ背ノ受筒ニ差シテ戰場ノ標識トナセリ、大永ノ頃ヨリ始マル。

七三 陣 笠 傳安政中山田奉行山口丹後守在勤中ノ所用 一蓋

陣笠ハ武士ノ平時馬上ニ用ヒ、又近世足輕中間等戰爭ニ用ヒタリ。

二七 陣 羽 織 傳八代將軍徳川吉宗ノ鷹狩ノ時着用 一領

陣羽織ハ足利時代末ニ具足羽織ト稱セシモノニシテ、陣中小具足ノミノ時着用セシモノナレドモ、後世ニハ甲冑ノ上ニモ用ヒタリ。

二七六 鳥毛陣羽織

肩翡翠、腰翡翠雉子交張、紋重扇白羽、襟赤地銀入錦、袖口黒赤ケシ付、胸紐鼠色羅紗。

一領

第二室

風俗人形

二〇三九 大名行列人形

舊山口藩主毛利氏ノ行列ヲ模シタルモノナリ。

一組

武器

二五〇六 軍配團扇

近古戰爭ニ兵士ヲ指揮シ若クハ方位日取等ヲナスニ用ヒタリ。兵學者ハ軍禮ニ用フルモノトセリ。

一柄

二七九一 采配

昔陣中ニテ大將ノ持チテ士卒ヲ指揮セシ具 一柄

七六九 毛拔形太刀

傳藤原秀郷所用

一口

無銘長二尺四寸双文直刃

藤原時代衛府ノ官人所用ノ太刀ナリ。莖ハ直ニ柄ノ形ヲ成シ毛拔形ヲ透シタレバ毛拔形太刀ト稱シ、マタ革緒ニテ佩キタレバ革緒太刀トモ稱ス、本品ハモト伊勢國赤堀村(今三重郡常磐村ノ大字)ニ傳ハリシガ、後山田ノ御師深井氏ニ傳ハリ、寛政五年更ニ豊宮崎文庫ノ有ニ歸シ、近年本館ノ所藏トナレリ。コハコノ種ノ太刀中最古ク且完備セルモノニシテ實ニ稀世ノ珍トイフベシ。但シ鞘包ノ飾損失シ、一ノ足、纏ノ渡卷及ビ帶取ノ莖蒲草等ハ足利時代ノ補足ニシテ最初ハ渡卷ナカリシナリ。

四八三 藤原秀郷朝臣佩刀考證

足代弘訓自筆

一冊 瀬尾吉重氏出品

四八四 太刀

傳源義朝所用 國寶

一口 伊勢朝熊岳 金剛證寺出品

傳吉包長二尺八寸表二筋樋裏一筋樋双文大亂ニ拳形丁子亂交ル。

源義朝ノ家臣鎌田政家ノ裔野間宗祐ノ寄附スルトコロナリ、宗祐ハ尾張國知多郡内海ノ人金剛證寺中興ノ開山佛地禪師ニ從ヒ來リ止マリテ萬金丹製藥ヲ始メ子孫傳ヘテ今ニ至ル。

三〇 太刀身 銘兼光長二尺五分又文小亂表裏棒樋アリ
 傳三池典太作長二尺三寸四分五厘又文直
 七九 打刀身 雙表裏棒樋アリ
 七四 打刀身 銘一文字長二尺三寸九分又文小亂ニ丁子
 亂交ル
 一〇〇 打刀身 銘備州長船祐定作永正□□長二尺五寸
 六分又文丁子亂表裏梵字アリ
 一〇四 打刀身 銘則光長二尺一寸五分反七分
 一〇五 打刀身 銘信濃守藤原國廣慶長七年月日長一尺八
 寸九分
 一〇六 短刀身 銘菊丹波守吉道丹波守入道宗鑑父子作之
 長一尺三寸四分
 七八 打刀身 銘兼延長二尺二寸五分又文直又ニ小亂交
 ル
 三九 打刀身 銘二王清(缺)指上長二尺一分又文直又表
 裏棒樋アリ
 一八〇 打刀身 銘二王清貞作長二尺三寸六分又文珠數又
 傳關千壽院作長二尺四分又文小亂
 二七 打刀身 傳關千壽院作長二尺四分又文小亂

一四

廣瀬忠三郎氏出品

加藤秀雄氏出品

同上

同上

同上

廣瀬忠三郎氏出品

光明寺出品

三三 打刀身 銘備州長船祐定大永六年八月日長二尺一
 寸八分又文大亂ニ丁字亂交ル表裏棒樋ニ
 添樋アリ
 二二 打刀身 銘備州長船住横山上野大掾藤原祐定長一
 尺六寸八分五厘又文拳形丁子亂 拵附
 一一 脇差 無銘長一尺二寸又文大五ノ目 拵附
 二四 打刀身 銘兼定長二尺二寸五分又文直又ニ小亂交
 ル 拵附
 七三 脇差身 銘奉納太神宮竹谷九藏嘉永二年正月日桑
 名住三品義明齋廣房作長一尺三分又文丁
 子亂
 七五 脇差身 銘井上眞改作延寶三年二月日長一尺二寸五分
 又文大灣表裏一筋樋中心ニ菊花ヲ刻ス
 一〇六 短刀身 銘武州住康重作天正八年戊辰六月日長六
 寸二分表裏春素劍彫 拵付
 一〇八 短刀身 藤堂仁右衛門高刑關ヶ原ノ戰ニ於テ大谷吉隆ノ馳將湯淺五助ト一騎打ノ際分捕セシモノト傳フ。

一五

桑原芳樹氏出品

太田光熙氏出品

同上

同上

藤堂高宣氏出品

法住院出品

光明寺出品

一六

二六 脇差身

銘村正長一尺二寸五分及文大亂

一口

一九六 脇差身

銘相州住廣正長一尺六寸五分及文大亂表二筋樋裏一筋樋アリ

一口

七八〇 脇差身

銘名護屋住肥後守秦光代作長一尺八寸一分及文直刃

一口

七六六 長卷身

無銘長二尺三寸二分及文直刃腰樋アリ

一本

足利時代ニ打刀ノ柄ヲ長大ニシテ長ク卷キテ薙刀ノ如クニ用ヒタレバ此名アリ中卷トモ書クコトアリ。

七八一 薙刀身

銘美濃守藤原政常長一尺三寸及文小亂

一本

七六六 薙刀身

銘岩捲長一尺六寸二分及文大亂

一本

一八八 劍

銘濃州西郡住壽命長六寸八分及文細直刃表裏一筋樋アリ

一本

光明寺出品

七三〇 劍

無銘長五寸七分及文細直刃

一本

七七一 長劍

銘奉納太神宮嘉永乙酉二月日仙臺住藤原玉秀一尺四寸五分及文直刃

一口

七四九 十文字鎗身

銘義國 鎗身

一本

七八二 十文字鎗身

銘美濃守藤原政常及文直刃

一本

二九五 大笹穂鎗身

無銘穗長一尺一寸幅一寸八分

一本

七七七 打刀身

銘備州長船祐定作大永五年八月日長二尺二寸及文大亂ニ丁子亂交ル

一口

七八四 脇差身

無銘長一尺三寸三分及文太直刃

一口

二八九 脇差身

銘武藏大榎藤原忠廣寛永八年二月吉日長一尺三寸四分及文大亂表裏薙刀樋アリ

一口

七九 脇差身

銘兼先長一尺六寸八分及文直刃

一口

七七〇 鎗身

銘宗近長六寸九分及文細直刃

一本

七四七 短刀身

銘國俊六寸四分及文細直刃

一口

二八三 大身鎗身

銘義助長二尺四寸五分及文亂ニ小五ノ目交リ逆カ、リ沙流アリ裏ニ血槽アリ

一本

一五四 印地鎗身

無銘竹節形長節ヨリ上六寸七分節ヨリ下七寸八分

一本

一七

古へ印地打ノ争ニ用ヒタル故ニ此名アリト云フ。或ハ古代ノ鉋ノ一種ナランカ。

- 二七六三 打刀身 銘備州長船信房長二尺六寸五分及文直及表裏棒樋ニ添樋アリ 一口
- 二七六八 打刀身 無銘西蓮本阿彌鑑定書附長二尺二寸八分及文小灣亂交ル表裏棒樋ニ添樋アリ 一口
- 二七六六 打刀身 銘康繼於越前作之葵ノ紋ヲ刻ス長二尺三寸三分及文直及ニ小亂心アリ表棒樋裏ニ二筋樋アリ 一口
- 二七六七 打刀身 銘山城守藤原國清長二尺三寸及文直及表ニ眞ノ俱利伽羅裏ニ護摩箸梵字ヲ刻シ中心ニ菊花ヲ刻ス 一口
- 二七六三 打刀身 無銘長二尺一寸四分及文直及表裏棒樋アリ 一口
- 二七六三 試胴具足 拵付 一領

兜、三枚張花鋳鏡、漆塗、所々彈痕アリ。梅、日根野形切付 札紺絲毛引威、胴、横矧山道花鋳鏡鐵
 錆地四所蝶番、草摺ナシ、鐵綿嚙、金具廻捻返シ繩目、鐵杏葉付、胸ニ八幡大菩薩背ニ天照太神宮

愛宕地藏權現ノ文字透額形金物ヲ打ツ錦襦包籠手添フ。

一五〇 腹卷 傳筑前福岡黒田播磨所用。足利時代 一領

黒草威、胸白紅威、草摺白茶二段入、大壺袖色々威、紅茶紅二段白ノ七段ナリ、背板ナシ、
 金具損失後世造ルトコロ。

腹卷ハ鎧ノ一種ニシテ、中古以來用心ノ爲衣服ノ下若クハ上ニ著シ、腹ニ卷キ背ニテ引合セタルモノ
 ニシテ袖モナカリシガ、後ニハ將士共ニ戰場ニ用フルコト、ナリ袖背板等ヲ仕出シタリ。

一四四 紺絲威腹當 一領

腹卷ノ略式ニシテ歩卒ノ料又輕裝ニ用フ。

一四二 桶側胴具足 大石義久作 一領

一四六 銀象嵌四枚胴具足 一領

一〇一〇 卯花威胴丸 一領 子爵 稻垣家舊藏

三〇一 皺皮包二枚胴具足

一領 同 上

三〇二 伊豫札胴丸

一領 同 上

三〇三 長鳥帽子形兜 傳蒲生氏郷所用

一頭

箱書ニ曰。蒲生氏郷奥州ニ於テ百萬石拜領入部ノ時暇乞ニ罷出候處秀吉公ヨリ此ノ兜ヲ下賜セラレタリ延寶五年六月二十九日云々。

三〇七 大立舉臈當 古作、表刷毛目塗裏黒塗

一具

一六〇 兜鉢

一頭

銀象嵌、後勝山三十二間筋巻込齋垣付、銀布目象嵌丁子唐草紋、角元付共眉庇、鞆ナシ。銘曰相州住久家張作判。

一四九 兜鉢

一頭

六十二間筋黒塗、前勝山、八幡座眉庇等缺。銘曰永正十五年十二月吉日明珍。

三〇三 笠鞆兜 傳楠家一族河内恩地左近滿一所用

一頭

二七二 豊公金突盔兜 朱塗面頬附屬 一頭 高松勝重氏出品

傳曰。小西攝津守行長、豊公ヨリ拜領セシヲ、更ニ行長ヨリ高松内匠ニ贈リタルモノ。

一〇九 陣羽織 一着 藤堂高宣氏出品

表裏錦、背敷島ノ歌竝ニ櫻花ノ刺繡濃紫ノ房付、前紐金糸、鈕赤銅蔦紋。

藤堂仁右衛門高泰明治元年東征ノ際着用セシモノナリ。

一〇三 武者袴 一着 同 上

表二重ドンス茶地ニ海岸秋草模様アリ。裏五日市。

馬具

二七一 馬甲 一組

古ハ具装ト稱セリ。其後中絶シ南北朝ノ頃ヨリマタ行ハレタリ。戰爭ノ時乘馬ニ掛ク。

第三室

風俗人形

一八三 中古風俗 男子 貴族

立烏帽子差貫ニ、單直衣ヲ著ケ、坐シテ脇息ニ依リ、手ニ繪扇ヲ携ヘタル體。藤原時代以來足利時代頃迄ノ貴族ノ喪ノ服(常服)ヲ示ス。

一八三 中古風俗 女子 貴族

垂髮ニ紅ノ袴ヲ穿キ、單ニ小袿ヲ重ネタルヲ著シ、坐シテ箒ヲ彈ズル體。貴族女子ノ喪ノ服ヲ示ス。

一八四 徳川時代風俗 女子 上流武家盛裝

髮ヲかたはづレニ結び、白ノ下著ニ赤ノ間著ヲ重ネ、帶附シテ打掛ヲ著シ、足袋ヲ穿キ、箱世古ニ簪ヲ挿シタルヲ懷中シ、三方ヲ捧ゲテ歩マントスル體。以テ中古ノ小袿ノ變化シタルヲ示ス。

服飾調度

二五八五 黃楮染御袍 夏 一領

明治天皇御料 宮内次官子爵花房義實氏拜領
元黃楮ヲ以テ染メタルニ因リテ名ヅク。御文ハ桐竹鳳凰麒麟ナリ。天子ノ御袍ニシテ嚴儀ニ御用アラセラル。

二五八六 黃楮染御袍 冬 一領

明治天皇御料 宮内次官子爵花房義實氏拜領

二五八九 御齋服 一具

明治天皇御料 宮内次官子爵花房義實氏拜領
帛御袍、帛御單、帛御下襲、帛御表袴(裏薄紅)、帛御大口。

二五八七 御直衣 夏 一領

二藍御文三重縹、明治天皇御料 宮内次官子爵花房義實氏拜領
平常御用ヒノモノニシテ長ク引キ給フ故ニ御引直衣又ハ御下直衣トモ云フ。下ニハ長キ緋ノ御袴ヲ著ケ給フ。

二五八 御直衣 冬 白地御文小癸明治天皇御料 宮内次官子爵花房義實氏拜領 一領

二七三 御軍服御上衣 夏 明治天皇御料 侍從伯爵三條西公允氏拜領 一領

白リンネル肋骨飾付

二七八 御乘馬服 夏 明治天皇御料 侍從伯爵三條西公允氏拜領 一領

白リンネルフロツクコート仕立三ツ揃

三〇三 御水盤 一口 松川 松藏氏寄贈

三〇〇 御水次 一合 同 上

三〇一 御手拭置 一基 同 上

以上三點明治四年十一月十七日大嘗宮回立殿御料器ノ内當時宮内少丞世古格太郎拜領セシモノ。

二六四 明治天皇御鐵笛 一管 松川 松藏氏出品

明治五年十一月世古延世筆拜領書添フ。

八九四 小 袷 表綾白地文雲立涌、中倍縹、裏萌黃平絹 一領

上流女子常ニ衣ノ上ニ打掛ケテ著スルヨリ名ヅケタルモノニシテ、裳、唐衣ヲ省キタル略式ノ時用フ。更ニ略シテハ直ニ內衣、袴ノ上ニモ用ヒタリ。

七八七 被 衣 一領 松田 健壽氏出品

婦人ノ頭ヨリ被ブル服ナリ。昔時ハ婦人外出ノ時コレヲ用ヒテ顔ヲ隠シタリト云フ。

三六四 狩 衣 一領

顯文紗、表白、菱ニ藻ノ文、裏生絹。袖括紫綵、東伏見宮御用。

古クハ狩獵ニ用ヒタルヲ以テ此名アリ。喪服トシテ用ヒ、又織物紋紗等ニテ作り一般上流ノ所用トナレリ。

二四四 縞 裳 一腰

古ハ眞ノ縞ヲ用ヒタレド、近代縞ヲ施セリ。本品ハ徳川時代宮中御儀式ニ女官ノ用ヒシモノナリ。

六四九 御緒太 一隻

大嘗祭ニ天皇ノ召サル、御草履ナリ。

三三四 表ア 襖ア

一領

室町時代ニ布直垂ノ紋所及腰紐、胸紐、菊綴等ヲ變シテ素襖ト名ケ、直垂ヨリ下等ノ服ニ作ラレ、江戸時代ニ至リ遂ニ無位無官ノ人ノ禮服ト定マレリ。

三九六 公卿禮服クギヤウライフク 模造

一具

隋唐ノ禮ヲ以テ行ハレシ即位禮、朝賀ノ際ニ於ケル公卿著用ノ禮服ナリ。

二四〇 火事装束 兜頭巾ハ女子用

一具

徳川時代出火ノ際士民ノ著セシ装束。松田家長太夫舊藏。松田家ハ山田ノ師職ニシテ彦根ノ藩主井伊氏ノ祈禱師タリ。本品ハ其ノ拜領品ナラン。

二九六 火事頭巾 男子用

一領

一五五 振袖 地黒綸子、貝涌ニ貝ノ疋田鹿子繡入、裏緋縮緬 一領

金糸ニテ梅ケ枝ノフキ縷繡模様

六三八 綿帽子 枝垂櫻模様付

一頭

眞綿ニテ作りタル帽子。元防寒ニ用ヒタルモノナルガ、後世婚姻ニ新婦ノイタバキテ顔面ヲ掩フモノトナレリ。

第四室

服飾

一五九 平緒ヒラ 紺地唐組黃鳳紋刺繡

一組

武官及ビ文官ガ太刀ヲ佩ク時用フルモノニシテ、色ハ劍ノ裝飾ニ隨ヒ紺コンムラサキ紫ムラサキ縹ヒナギク茶等アリ元一條ナリシヲ後二條ニ分チ之ヲ切平緒トイフ。四位以上ハ唐組ヲ用フ。

二三五 銀魚袋

一個 石谷峻三氏出品

魚袋ハ朝廷ノ公事ニ佩用セシモノニシテ、上代ニハ唯當色タウシキノ帛キレニテ縫ヒタル袋ナリシガ、後ニハ鮫

皮ニチ包ミタルモノトナレリ。三位以上ハ金魚袋四位五位ハ銀魚袋トス。

三六 古帔帖 推古時代乃至奈良時代頃ノ古帔 一帖
三十九枚ヲ收ム

八三 古帔 額装、法隆寺所傳奈良時代ノ古帔 一面
三十六枚ヲ收ム

九三 武禮冠 一頭 御巫清白氏出品

古ヘ朝賀、即位等ノ大禮ニ唐風ノ禮服ヲ著セシ時武官ノ用ヒシモノ、明治天皇御登極ノ時ヨリ廢セラレ。

四三 石帶 一腰 瑪瑙巡方丸軻打交

石帶ハ朝服ニ用フルモノナリ。古代ハ一條ニシテ金銀玉石等ノ飾ヲ付シ、革帶ト稱セシガ、後二條ニ切リテ石ヲ以テ飾リタレバ石帶ト呼ブニ至レリ。三位以上ハ玉、瑪瑙ヲ用ヒ四位以下ハ白石犀角ヲ用フ。石ノ形狀ニ巡方ジュンヘウ丸軻ノ別アリ、巡方ハ神事又ハ吉事ニ用ヒ、丸軻ハ佛事等ニ用ヒシガ後ニハ巡方丸軻ヲ打交ゼテ吉凶共ニ用ヒル事トナレリ。

家什調度

三八六 金屬製一輪挿 一基

神宮ヘ昭和七年五月米國人メイソン氏獻備サレシモノナリ。

三九 行器 一合

食物ヲ盛りテ持チ運ブニ用フル器ナリ。

三九三 御厨子棚 一脚

二階棚ニ厨子ヲ設ケシモノニシテ、調度類ヲ置ク、又厨子ノミナルヲ壺厨子ト稱ス。

三七 打置 一個

廣蓋ニ載セタル小袖ノ押ヘナドニ用フルモノニシテ、又打枝トモイフ。其ノ實ノ中ニハ香ヲ藏ス。

六三 標子 五個

黒塗、菊桐、片喰ノ紋蒔繪、徑三寸五分。傳曰、豊臣家什器、足代弘訓ノ家ニ傳來。

三三三 木

盃 朱塗徑四寸五分

上杉謙信ガ勳功ノ將士ニ與ヘシモノニシテ、世ニ春日山盃ト稱ス。

三三五 茶

壺 模造、故實卷物一卷添

德川時代將軍家ノ御料トシテ宇治ヨリ獻進セシ茶壺ノ様式ヲ模シタルモノナリ。

三三三 燈

臺 木製、高二尺五寸五分

法隆寺形、原物ニハ鏡形ニ兒童ノ眠リタル繪アレバ俗ニ眠燈臺ト稱ス。照開夢眼觀古今剔起灰心對聖賢ノ銘アリ。

一六三 葛

桶

行器ノ一種ニシテ葛ノ輪ヲ繁ク卷キテ造リシ桶ナルヲ以テノ稱ナリ。

三三六 脇

息

甲天鷲絨張、金銅籠透菊桐模様火屋付、地黒塗水ニ葵河骨盧ノ蒔繪、菊桐金紋散、火取香爐同斷、倚懸

二九〇 脇

息

ニ薰爐ヲ裝置セシモノ。一種ノ脇息ナリ。

二九七 香

枕

枕ノ中ニ香ヲ炷ク裝置ヲ設ケタルモノ。

二九二 鏡

盒

松竹蒔繪裏梨地

一六一 鏡

盒

梨地花鳥蒔繪

八九八 櫛

臺

菊ニ水ノ蒔繪

二〇八 櫛

箱

青貝金銀ノ楓蒔繪

二七六 鏡

臺

流水ニ紅葉ノ蒔繪

六四四 眉作道具

入

九四四 黛

入

三八〇 鐵漿付道具

御巫清白氏出品

一脚

一基

一合

一合

一基

一合

一基

一組

一個

一組

三四〇 角^フ 盥^{ダラヒ} 黒塗、高七寸六分口徑一尺三寸五分椽付 一組

手ヲ洗ヒ或ハ齒黒メニ口ヲ嗽グナドニ用フ。後ニハ此角ヲ省キテ耳ヲ付シテ耳^{ミ、クラヒ}盥ト稱ス。

八九七 化粧^{クシヤウ} 盥^{ダラヒ} 黒塗桶唐草松皮菱文蒔繪 一口

六五三 嫁入^{ヨノイリ} 調度^{アウド} 鏡臺、鏡、手箱、雙六盤、化粧盥、衣桁、手文庫、手拭掛、椽、鐵漿著道具、丸火鉢、硯箱、櫛臺、
十七點 野間 園彦氏出品

鏡臺、鏡、手箱、雙六盤、化粧盥、衣桁、手文庫、手拭掛、椽、鐵漿著道具、丸火鉢、硯箱、櫛臺、
煙草盆、糞臺、守刀等及其附屬品

一四九六 變形獸帶鏡 支那製、徑七寸三分 一面

我が國ノ鏡ハ、上古以來支那ヨリ傳來シタルモノモアリシガ、藤原時代以後ハ専ラ内國製ノモノヲ用
ヒ輸入品ハ、其後漸ク跡ヲ絶ツニ至レリ。鏡ノ名ハ鏡背ノ模様ニヨリテ稱スルモノナリ。

二〇六五 雙龍鏡 支那製、徑二寸九分 一面

一四九七 内行花紋鏡 支那製、徑五寸三分 一面

二〇六〇 海獸葡萄鏡 支那製、徑三寸一分 一面

二〇六六 葡萄鏡 支那製、徑三寸 一面

二〇七三 狻猊鏡 支那製、徑二寸八分 一面

二〇六三 八花鴛鴦鏡 支那製、徑三寸九分 一面

二〇五九 素背燻紋鏡 支那製、徑二寸六分五厘 一面

二〇六九 素背鏡 支那製、徑二寸九分 一面

二〇六三 樓閣人物鏡 支那製、徑三寸二分 一面

二〇六一 柄鏡 支那製、銘曰整衣冠瞻視、
徑三寸八分、柄二寸七分 一面

二〇六一 楕圓鏡 外國製、DASOノ歐字アリ。 一面

二〇七六 菊花雙雀鏡 鎌倉時代、徑三寸七分五厘 一面

二〇七四 草花雙雀鏡 足利時代、徑三寸六分五厘 一面

- 二〇一七 唐花雙鸞鏡 足利時代、徑三寸七分 一面
 - 二〇一五 龜甲紋雙雀鏡 足利時代、徑三寸七分 一面
 - 二〇一八 鶴龜鏡 德川時代、徑一寸七分 一面
 - 二〇一九 鶴龜松竹鏡 德川時代、徑三寸九分 一面
 - 六四七 鶴龜松竹鏡 德川時代、銘天下一對馬、徑二寸七分 一面
 - 六四〇 柄鏡 桐紋付、銘天下一青 一面
 - 二七八 二神四獸鏡 支那製、漢末 一面
 - 二八九〇 八稜寶相華鏡 藤原時代末、徑一尺 一面
 - 二九九五 神馬方鏡 織豐時代、銘天下一淨阿彌作
縱六寸四分、橫六寸一分五厘 一面
 - 四六七 山吹蝶鳥鏡 藤原時代、徑三寸四分 一面
 - 四六八 網紋雙雀鏡 殘缺、藤原時代徑凡二寸五分 一面
- 角谷清兵衛氏寄贈
岩出齋三郎氏出品
上

- 四六九 松鶴鏡 藤原時代、徑三寸四分 一面
 - 四七〇 松鶴鏡 藤原時代、徑三寸二分 一面
 - 四七一 山吹雙雀鏡 藤原時代、徑二寸七分 一面
 - 四七二 菊紅葉雙雀鏡 藤原時代、徑三寸五分 一面
 - 四七三 蓬萊鏡 足利時代、徑三寸六分 一面
 - 四七四 三盛龜甲雙雀鏡 足利時代、徑三寸七分 一面
 - 四七五 三菊散雙雀鏡 足利時代、徑三寸一分 一面
 - 四七六 龜甲地雙雀鏡 足利時代、徑三寸八分 一面
 - 四七七 紋盡方鏡 德川時代、銘天下一出雲守、
二寸七分五厘角 一面
 - 四七八 布袋柄鏡 德川時代、銘天下一、
徑三寸五分、柄三寸二分五厘 一面
 - 四七九 椿樹柄鏡 德川時代、徑三寸五分 一面
- 上上上上上上上上上上上上

- 四八〇 漁夫垂釣柄鏡 德川時代、銘天下一、
徑三寸七分、柄三寸五分 一面 同 上
- 四八一 蓬萊柄鏡 織豊時代、徑三寸一分、柄二寸七分 一面 同 上
- 一〇〇〇 蘆鶴八稜鏡 平安朝後期、徑四寸五分
多度神社境内ニ於テ發見 一面 平野直大氏出品
- 一〇〇一 瑞花鴛鴦鏡 同時代、表面ニ愛染明王像ノ毛彫アリ
同上發見、徑三寸六分五厘 一面 同 上
- 一〇〇三 瑞花双鳳八稜鏡 同時代、徑三寸五分五厘
同上發見 一面 同 上
- 一〇〇三 瑞花鴛鴦五花鏡 同時代、徑三寸六分五厘
同上發見 一面 同 上
- 二八七 山吹蝶鳥鏡 藤原時代、徑二寸七分 一面 御巫清白氏出品
- 二八八 菊花散双雀鏡 足利時代、徑三寸五分 一面 同 上
- 二九〇 芙蓉尾長鳥鏡 同時代、徑三寸七分 一面 同 上
- 二九一 竹丸紋双鶴鏡 同時代、徑六寸九分 一面 同 上
- 二九三 松月双雀鏡 同時代、徑三寸三分 一面 同 上

文房具

- 二九三 双雀鏡 同時代、二寸四分 一面 同 上
 - 二九四 菊花散双鶴鏡 同時代、徑二寸六分 一面 同 上
 - 二九六 菊花双雀鏡 同時代、徑一寸七分五厘 一面 同 上
 - 二九五 裏菊鐵線蓮紋鏡 德川時代初期、徑二寸六分五厘 一面 同 上
 - 七〇六 天平筆 模造 一管
 - 三三六 軸 盆 一個
 - 二〇九六 絲 印 九顆
- 奈良正倉院御物ヲ模造シタル心有筆ニシテ紙ヲ以テ卷キテ之ヲ心トシ、筆毛ヲ纏ヒテ製ス。筆穂ノ形ハ所謂雀頭ト稱スルモノニシテ太ク圓ク短シ。
- 二卷置、卷物ヲ置キテ座敷傍ニ用フルモノナリ。
- 弄球獅鈕印面圓形。獅鈕印面圓形。猿鈕印面圓形。獅鈕印面圓形。獅鈕印面圓形。獅鈕印面圓形。人鈕印面方形。壽

老鈕印面長方形。立獅鈕印面方形。走狗鈕印面方形。絲印ハ足利時代明國ヨリ輸入セル一種、仕込印ナレバ多クハ印文讀ムベカラズ。絲印ト稱スルハ彼國ヨリ輸入セル唐絲ノ内ニ入レタルモノナルヲ以テナリト云フ説アリ。

二〇九三 銅 印 雞頭鈕、印文大福 一顆

本邦製ノ古印ニシテ篆文奇古ナリ。奈良朝乃至平安朝ノモノニシテ世ニ大和古印又ハ延喜古印ナドト稱ス。又其鈕ノ形ニヨリテ雞頭鈕ノ印トモ稱ス。之ニ類スルモノ間々朝鮮ニモ存セリ。

二〇九四 銅 印 雞頭鈕、印文貞 一顆

九八二 墨 型 鐵 製 一個
筑前博多ノ墨工常春園村田氏ニ相傳セシモノニシテ弘法大師唐ヨリ持歸リシモノナリトイフ。

二九二〇 新羅 墨 模 造 一挺
裏面ノ銘ニ曰ク維時明治八年乙亥東大寺博覽會御寶庫正倉院御物新羅墨家官許謹而模寫之 古梅園製

九六 硯 造 一面 井坂徳三郎氏出品

本品ノ傳來ハ左記三條實萬卿ノ消息ニヨリテ詳ナリ。度會弘訓神主搜索皇朝之史書其用意也深甚切足感嘆矣爲慰其勞附與硯一枚耳

此硯者自 禁中拜賜物也 權大納言實萬

二五二七 瓦 硯 一面
銘細波、長五寸七分、幅三寸五分、厚九分。

二〇五五 瓦 硯 一面
長七寸七分、上幅四寸二分、下幅二寸五分、表細目裏布目、所傳多賀城古瓦。

二五一九 硯 硯 一面
長七寸四分、幅四寸五分、瓦形粘板岩。裏銘曰未央宮東閣瓦。

一六七二 銅 硯 硯 一面
支那製、楕圓彎形、長三寸三分、裏銘曰青鸞獻壽。

一六七八 硯 箱 一合
沃懸硯及眞鍮水滴添、墨筆等缺、編桐製、唐楸形、掛子紐付金砂子花模様。

- 二〇二〇 硯箱 螺鈿唐草模様。 一合
- 二〇二一 料紙箱 螺鈿唐草模様。 一合
- 一五七一 料紙箱 表扇散蒔繪、内部山吹蒔繪、(金物後補) 一合
- 一五三二 肉池 支那製、青銅、唐草七寶流、徑三寸二分。 一個
- 一六七二 水滴 甲銅製鍍銀、鶴高彫、側鍍金鶴毛彫、雲七寶入。 一個
- 二四三三 短冊宮 墨塗蒔繪、神馬藻七寶=菱蒔繪、鑲座酸漿、紐眞紅丸打、長一尺三寸五分、幅三寸一分、高二寸九分。 一合
- 一五九〇 小机 黒塗、盧=鶯ノ蒔繪、(金具剝落) 一脚
- 一六六六 硯屏 縦八寸一分、横一尺六分、高四寸四分。 一基
- 一六六六 硯屏 明時代
- 二七六〇 和琴 銘五十鈴 一面

樂器

我國固有ノ絃樂器ナリ。首端鷄尾ニ似タルヲ以テ鷄尾ノ琴トモ云フ。

- 一〇九 琵琶 雅樂用 一面 神宮神部署出品
- 一一〇 箏 雅樂用、第三室風俗人形ニ配ス。 一面 同 上
- 二五六六 太鼓 雅樂用 一基
- 二五七五 鉦鼓 雅樂用。臺裏銘曰樂器師神田内匠作 一基
- 二五七三 羯鼓 雅樂用 一基
- 二五七二 篳篥 銘翁丸。雅樂用 一管
- 二五六八 笙 銘鳳凰丸。雅樂用 一管

極書曰

右之古管作者不知年數凡及三百年餘尤音律勝可爲秘藏重器也 從四位下右京亮伯則安(花押)

- 一三六 横笛 銘布シ起丸。傳松平樂翁作 一管 西村源十郎氏出品

二二七 廣瀬蒙齋不思議丸記

二五七〇 横笛 雅樂用

二五七一 横笛筒 相笛入

二五七二 横笛筒

二五七八 神樂笛 雅樂用。

我國固有ノモノ。太笛トモイフ。

二五七九 高麗笛 高麗樂用

一八〇三 袍 納蘇利用

武官着用ノ胸腋ノ袍ト同ジクシテ袖括アルヲ異ナリトス。左方ニハ赤色ヲ右方ニハ青色ヲ用フルヲ

常トス。舞樂ノ時コノ上ニ襦褌ヲ著シテ下ニ差貫ヲ著ク。

舞樂ハ雅樂ニ合セ舞フモノニシテ、天竺漢土ノ樂トシテ多ク佛教ノ傳來ト同時ニ渡來シタルモノナル

ガ、後ニハ神事其他朝廷ノ諸儀式ニモ用ヒラルニ至レリ。

一卷 同 上

二管

一個

一個

一管

一管

一領

二五六 襦 納蘇利用、裏書曰正徳二壬辰九月三

二五六〇 表袴 納蘇利用 日東大寺八幡宮

二五六二 腰帶 裏書曰正徳四年九月三日東大寺八幡宮

二三六四 傘 納蘇利用

二五六五 桴 納蘇利用、傳、東大寺八幡宮舊藏

二五六六 袍 舞樂用左方

二五五七 袴 舞樂用左方

二五五八 袍 林歌用右方

一八四五 袍 蘭陵王用

二四〇 絲鞋 一足

絲ニテ編ミタル者ニシテ。幼童及ビ武官舞人ノ用フルモノナリ。

一六七 伎樂面模造

伎樂ハクレガクト訓ス。佛教ト同時ニ渡來シタル所謂吳國ノ樂ニシテ、奈良朝時代ニ行ハレタルガ中絶シテ今ハ傳ハラズ。ソノ曲目ノ一部ハ舞樂ノ中ニ編入セラレテ後世ニ殘レルモノアリ。

一六六 伎樂面

迦樓羅、模造

一面

一四六九 舞樂面

貴得、傳曰東大寺八幡宮舊藏

一面

一四七〇 舞樂面

散手傳曰東大寺八幡宮舊藏

一面

一〇三 能面

白樹、日光作

一面

一〇二 能面

黒樹

一面

二〇九 能面

大飛出

一面

二〇八 能面

大龜見、(缺損)

一面

二八三 舞樂面

納蘇利、裏書曰正元元年九月三日取順作
正德三年九月三日令修復者也東大寺八幡宮

一面

二五六 舞樂面

散手、裏書曰正四位上出羽守
太秦俊壽宿禰花押八十一歳ノ作

一面

遊戯具

六八三 蹴鞠裝束

銘桐壺掃木

皆具

野間 因彦氏出品

六八四 鞠

銘桐壺掃木

二個

同上

三四一 雙六盤

筒、白黒石、賽添

一具

二四 繪骨牌

雙六ハ支那ヨリ傳來シタル遊戯ニシテ、小兒ノ玩ブ畫雙六モ亦之ヨリ轉ジタルモノナリ。

二八 御所人形

支那骨牌一、うんすん骨牌二、職人骨牌六、唐武者一、金箔地ニ極彩色ヲ以テ風俗畫ヲ描寫セシモノ。

二八 御所人形

五種 村岡 力氏出品

御所人形ハ宮中又ハ貴紳ヨリ賜ハルヲ以テ名ク、又關東ニ多ク來リシヲ以テ御土產人形トモ云ヒ、其問屋ノ名ニヨリテ伊豆倉人形トモイヘリ。

三三ノ一 加茂人形

十二種

加茂人形ハ加茂社家ノ造リ出セルヨリ此名アリ。衣服ヲ極メ込ミテ造リタレバ、一名木目込人形トモ稱ス

三三ノ二 御土產人形

二種

三三ノ三 手遊

四個

四八〇 羽子板

鴛鴦、熊、牝鷄、犬
黒田家定紋付、傳曰黒田家所用、享保年間製二柄

二六五 釜

淨波作

二六六 風爐

清左衛門作

六三二 甌口羽釜

古天明作

天正十五年豊臣秀吉北野ニ大茶湯會ヲ開キシ時、中山氏ノ祖正忠携ヘ上リテ、獻茶ノ榮ニ與リシモノナ

一口 中山 讚治氏出品

リトイフ。

一四一 百枝松水指

一個 加田 利八氏出品

底ニ元祿癸酉年九月吉日外宮長官常和ノ署名アリ。

一四四 車軸

一口 藤堂 博文氏出品

三〇〇 茶杓

一本

三〇二 棗

一合

四六一 毬香爐

一個

支那ニテ被中ニ用ヒシモノ、遺風ニシテ火入廻轉ス。之ヲ臺ノ上ニ置ク。環アル場合ハ釣リ用ヒテ釣香爐トイフ。

一六八 香道具

一具

盤板共ニ搔合朱塗、小板二枚、鏡馬人形一對、同板二枚、黒柿臺二個、矢敷香用矢黒柿臺付十一本、

開花香用櫻紅葉臺付十本、飄箆金總付十個銀總付十個。
 沈、白檀等各種ノ香木ヲ薰ジ、人々之ヲ暗射シテ勝負ヲ決ス。之ヲ香合トイフ。其方法ニヨリ種々ノ
 名アリ、隨ツテ其勝負ヲ標スル道具モ異ルヲ用フルナリ。

六八九 十炷香道具

一組 野間 罔彦氏出品

七五 香

盒 傳祥瑞作

一合

三三 源氏香箱

蓋 欠

一合

二八六 焚殻入

蓋 欠

一合

三九 鞠臺

一基

度量衡 貨幣

三三 瑠璃尺

尺 (模造)

一本

一面ニハ十二支ノ圖ヲ描キ、一面ニハ樓閣庭園花鳥ヲ描キ悉ク藍ヲ以テ彩色ヲ施セリ。原品岩代國耶

摩那惠日寺所傳。

七〇 支那古尺

(模造) 唐大尺、唐小尺、周尺

三本

八三 天秤

一基 宇仁田仁兵衛氏出品

三三〇 本朝十二文錢

十二枚

- (一) 和銅開珍 和銅元年所鑄
- (二) 萬年通寶 天平寶字四年所鑄
- (三) 神功開寶 天平神護元年所鑄
- (四) 隆平永寶 延曆十五年所鑄
- (五) 富壽神寶 弘仁九年所鑄
- (六) 承和昌寶 承和二年所鑄
- (七) 長年大寶 嘉祥元年所鑄
- (八) 饒益神寶 貞觀十二年所鑄
- (九) 貞觀永寶 貞觀十二年所鑄
- (一〇) 寬平大寶 寬平二年所鑄
- (一一) 延喜通寶 延喜七年所鑄
- (一二) 乾元大寶 天德二年所鑄

二四三 日本錢

十四枚

- (一) 和銅開珍
- (二) 和銅開珍
- (三) 萬年通寶
- (四) 神功開寶

- (五) 隆平永寶
- (七) 承和昌寶
- (九) 貞觀永寶
- (二) 乾元大寶
- (三) 慶長通寶 慶長十一年所鑄
- (六) 富壽神寶
- (八) 長年大寶
- (一〇) 延喜通寶
- (三) 文祿通寶 文祿年間所鑄
- (四) 元和通寶 元和元年所鑄

三四 日本錢

- (一) 寬永通寶 明和七年ヨリ八年マデ常陸木崎ニテ所鑄
- (二) 寬永通寶 正徳四年ヨリ五年マデ佐渡相川ニテ所鑄
- (三) 寬永通寶 寬文八年ヨリ天和三年マデ江戸龜井戸ニテ所鑄
- (四) 寬永通寶 明和二年長崎ニテ所鑄
- (五) 寬永通寶 寬保二年紀伊一之瀬ニテ所鑄
- (六) 寬永通寶 元文元年江戸小梅ニテ所鑄
- (七) 寬永通寶
- (八) 貞享通寶 通用錢ニアラザレドモ便宜上陳列ス
- (九) 寬永通寶 (當四)
- (一〇) 寬永通寶 (當四) 明和五年ヨリ六年マデ所鑄
- (二) 寬永通寶 (當十) 寬永四年所鑄
- (三) 寬永通寶 (當十) 同上

十四枚

三七 日本錢

- (三) 天保通寶 (當百) 天保六年所鑄
- (四) 天保通寶 (當百) 同上
- (一) 寬永通寶(種錢)
- (二) 天保通寶 (當百、種錢) 天保六年所鑄
- (三) 寬永通寶(當四) 寬保元年ヨリ延享二年マデ大坂高津新地ニテ所鑄
- (四) 文久永寶(當百) 文久三年(慶應元年)所鑄
- (五) 文久永寶(當百) 文久三年(慶應元年)所鑄

八枚

三三—三三三 徳川時代金銀貨 (模造)

八十二枚

- (一) 慶長大判 慶長六年ヨリ元祿十六年迄百五年間鑄造
- (二) 駿河座慶長小判 慶長六年ヨリ元祿十六年迄百五年間鑄造
- (三) 京座慶長一分 慶長六年ヨリ元祿十六年迄百五年間鑄造
- (四) 慶長丁銀豆板 慶長六年ヨリ元祿八年迄九十五年間鑄造、此丁銀ニ大小輕重アリ量目ハ四十四
匁ナルヲ掛目不足スルトキハ豆板ヲ以テ之ヲ補フモノナリ。
- (五) 元祿大判 元祿八年ヨリ寶永七年迄十六年間鑄造
- (六) 京座元祿小判 元祿八年ヨリ寶永七年迄十六年間鑄造

- (七) 元祿一分 元祿八年ヨリ寶永七年迄十六年間鑄造
- (八) 元祿二朱 元祿十年ヨリ寶永七年迄十四年間鑄造
- (九) 元祿丁銀豆板 元祿八年ヨリ寶永三年迄十三年間鑄造
- (一〇) 京座乾字小判 寶永七年ヨリ正徳四年造鑄造
- (一一) 京座乾字一分 寶永七年鑄造
- (一二) 三寶丁銀豆板 寶永七年ヨリ正徳元年迄二年間鑄造
- (一三) 永字丁銀豆板 寶永七年鑄造
- (一四) 小つゝ 此小つゝハ丁銀受渡ノ際銀一枚四十四匁ニ分厘ノ不足ヲ生ゼシトキ之ヲ補フモノナリ
- (一五) 四寶丁銀豆板 正徳元年ヨリ同二年迄鑄造
- (一六) 元文小判 元文元年ヨリ文政元年迄八十三年間鑄造
- (一七) 文政眞寶一分 文政十一年ヨリ天保八年迄十年間鑄造
- (一八) 元文眞字小判 元文元年ヨリ文政元年迄八十三年間鑄造
- (一九) 元文丁銀豆板 元文元年ヨリ文政元年迄八十三年間鑄造
- (二〇) 明和五匁銀 明和二年ヨリ安永元年迄八年間鑄造

- (二一) 安永南錄二朱 安永元年ヨリ文政七年迄鑄造
- (二二) 享保大判 享保十年ヨリ天保八年迄百十三年間鑄造
- (二三) 享保小判 享保元年ヨリ元文元年迄二十一年間鑄造
- (二四) 享保一分 同上
- (二五) 享保丁銀豆板 正徳元年ヨリ元文元年迄二十三年間鑄造
- (二六) 文政小判 文政二年ヨリ同十年迄九年間鑄造草文小判是ナリ
- (二七) 文政二分 文十一年ヨリ天保八年迄十年間鑄造
- (二八) 文政一分 文政二年ヨリ同十一年迄十年間鑄造
- (二九) 角形文政一朱 文政七年ヨリ天保三年迄九年間鑄造
- (三〇) 文政丁銀豆板 文政三年ヨリ天保八年迄十八年間鑄造
- (三一) 文政南錄二朱 文政七年ヨリ天保三年迄九年間鑄造
- (三二) 明和南錄一朱 安永元年ヨリ文政七年迄五十二年間鑄造
- (三三) 文政一朱 文政十二年ヨリ天保八年迄九年間鑄造
- (三四) 天保小判 天保八年ヨリ安政五年迄二年間鑄造

- (三五) 大形安政二朱 安政元年ヨリ慶應年度迄鑄造
- (三六) 天保丁銀豆板 天保八年ヨリ安政五年迄廿二年間鑄造
- (三七) 安政小判 安政三年ヨリ萬延元年迄五年間鑄造
- (三八) 安政二分 同 上
- (三九) 安政一分 同 上
- (四〇) 安政丁銀豆板 安政元年ヨリ慶應元年迄十二年間鑄造
- (四一) 天保吹増大判 天保九年ヨリ萬延元年迄廿三年間鑄造
- (四二) 天保一分 天保八年ヨリ安政五年迄廿二年間鑄造
- (四三) 天保二朱 天保三年ヨリ安政五年迄廿七年間鑄造
- (四四) 天保古一分 天保八年ヨリ安政元年迄十八年間鑄造
- (四五) 天保五兩判 天保八年ヨリ同十四年迄七年間鑄造保字五兩是ナリ
- (四六) 嘉永一朱 嘉永六年ヨリ慶應元年迄十三年間鑄造
- (四七) 新大判 萬延元年ヨリ文久二年迄三年間鑄造
- (四八) 新二分 萬延元年ヨリ元治元年迄五年間鑄造

二四二 支那錢

三十五枚

- (四九) 安政一分 安政六年ヨリ元治元年迄十五年間鑄造
 - (五〇) 新小判 萬延元年ヨリ慶應三年迄八年間鑄造
 - (五一) 新一分 萬延元年ヨリ慶應三年迄八年間鑄造
 - (五二) 新二朱 萬延元年ヨリ明治二年迄十年間鑄造
- 宋元通寶、太平通寶、淳化元寶、至道元寶、咸平元寶、景德元寶、祥符元寶、祥符通寶、天禧通寶、天聖元寶、明道元寶、景祐元寶、皇宗通寶、至和元寶、嘉祐元寶、嘉祐通寶、治平元寶。
- 以上十七種宋太祖開寶中（冷泉、圓融兩天皇ノ交）ヨリ宋英宗治平元年（後冷泉天皇康平七年）マデ北宗時代鑄ルトコロナリ。

二四三 支那錢

二十四枚

- 天命通寶、順治通寶、康熙通寶、雍正通寶、乾隆通寶、嘉慶通寶、道光通寶、咸豐通寶、同治通寶、光緒通寶
- 以上十種清太祖天命元年（後水尾天皇元和三年）ヨリ光緒元年（明治八年）マデ清朝ノ鑄ルトコロナリ。

自二四八
至二五〇

支那錢

八十枚

治平通寶、熙寧元寶、元豐通寶、元祐通寶、紹聖元寶、元符通寶、聖宋元寶、大觀通寶、政和通寶、宣和元寶、宣和通寶、靖康通寶

以上十二種宋英治平元年（後冷泉天皇康平七年）ヨリ宋欽宗靖康元年（崇德天皇大治元年）マデ北宋時代鑄ルトコロナリ。

壽昌元寶、乾統元寶ノ二種ハ遼道宗壽昌中ヨリ同天祚乾統中（堀河天皇嘉保二年ヨリ鳥羽天皇ノ初世マデ）遼代鑄ルトコロナリ。

建炎通寶、紹興通寶、乾道元寶、淳熙通寶、紹熙元寶、慶元通寶、嘉泰通寶、開禧通寶、嘉定通寶、大宗元寶、紹定通寶、端平元寶、嘉熙通寶、淳祐元寶、皇宋元寶、開慶通寶、景定元寶、咸淳元寶、以上十八種南宋高宗建炎元年（崇德天皇大治二年）ヨリ南宋度宗咸淳元年（龜山天皇文永二年）マデ南宋時代鑄ルトコロナリ。

正隆元寶、大定通寶ノ二種ハ金海陵王正隆二年（後白河天皇保元二年）及金世宗大定十八年（高倉天皇治承二年）鑄ルトコロニシテ金時代ニ屬ス。

二五二

支那錢

大錢

十六枚

元貞通寶、大德通寶、至大通寶、至正通寶、天祐通寶、天定通寶

以上六種元成宗元貞年間（伏見天皇永仁中）ヨリ徐壽天定年間（元順宗至正中、後村上天皇正平中）マデ元時代ノ鑄ルトコロナリ。

大中通寶、洪武通寶、永樂通寶、宣德通寶、弘治通寶、嘉靖通寶、隆慶通寶、萬曆通寶、天啓通寶、崇禎通寶、弘光通寶、隆武通寶、永曆通寶、永昌通寶

以上十四種明太祖即位前八年（後村上天皇正平十六年）ヨリ明思宗崇禎末年（明正天皇寬永末年）マデ明時代ノ鑄ルトコロナリ。

利用通寶、昭武通寶、洪化通寶、裕民通寶ハ清聖祖康熙中（靈元天皇延寶中）ノ借鑄ナリ。

二五三

安南錢

三十五枚

天福鎮寶、大治元寶、紹平通寶、元和通寶、延寧通寶、光順通寶、光慶通寶、洪德通寶、景統通寶、端慶通寶、洪順通寶、明德通寶、平安通寶、永壽通寶、保泰通寶、景興通寶、永盛通寶、景興巨寶、景興大寶、景興重寶、景興至寶、泰德通寶、昭統通寶、光中通寶、景盛通寶、嘉隆通寶、明命通寶、紹治通寶、嗣德通寶、天和通寶

以上三十種安南黎大行帝桓天福五年(圓融天皇永觀二年)ヨリ同阮嗣德(明治十五年)マデ安南ニテ鑄ルトコロナリ。

二五 畫錢及厭勝錢

車念佛畫錢、本邦製

大鏡稻荷畫錢、同上

厭勝錢、支那製、表六珍貨、背內層十二支ノ文字、外層十二支ノ圖

厭勝錢、支那製、奉加官進祿、背內層十二支ノ文字、外層十二支ノ圖

厭勝錢、支那製、表八卦、背十二支

厭勝錢、支那製、表八卦、背呪文

九枚

蛭子畫錢、同上

厭勝錢、支那製、表金玉滿堂長命富壽、背鶴龜

厭勝錢、支那製、福壽

三 軍用千兩箱

一個

三三 古金壺及蓋石

一個 石谷峻三氏出品

自八四 至八五 金 量

五個 字仁田仁兵衛氏出品

二八五 兩替看板

一個 同上

第五室

神宮撤下御物 遷宮關係資料 輿車船舶

○皇大神宮御料

1060 赤紫綾御蓋 アカムラサキアヤノオン 柄、綱、金銅鈴添フ

一具

1061 羅紫御翳 ラムラサキノオンサシハ

一柄

1062 菅御翳 スゲノオンサシハ 網添フ

一柄

106 菅御笠 スゲノオンカサ 柄、網添フ 一枚

以上大正十一年假殿遷宮調進 昭和四年撤下

○皇大神宮別宮荒祭宮御料

107 菅御笠 柄、緋綾網 一枚

明治四十二年式年遷宮調進 昭和四年撤下

108 細辛櫃 ホツカラヒツ 朱漆。御弓容器 覆、雨皮、置臺、金銅鎖鑰添フ 一合

109 細辛櫃 朱漆。御太刀容器 覆、雨皮、置臺、金銅鎖鑰添フ 一合

110 細辛櫃 黒漆。御裝束容器 初、覆、雨皮、金銅鎖鑰添フ 一合

111 細辛櫃 朱漆。金銅御櫛其他容器 初、覆、雨皮、金銅鎖鑰添フ 一合

112 皇大神宮遷宮式模 以上昭和四十年式年遷宮御用 明治四十二年式年遷宮調進 一函

神宮式年遷宮ハ二十年毎ニ行ハセラル、御定ニシテ、奉遷勅使ノ參向アリ。渡御ハ夜ヲ以テ行ハセラル。御神體ハ大宮司、少宮司、禰宜之ヲ奉戴シ、絹垣行障ヲ繞ラシ奉リ、奉遷勅使ハ其ノ御前ニ、神宮祭主ハ其ノ御後ニ供奉セラレ、以下ノ神官各其ノ所役ヲ奉ジテ前後陣ニ供奉ス。本圖ハ明治四十二年十月二日ノ皇太神宮遷御ノ御儀ノ一部ヲ謹模シタルモノナリ。

113 御遷宮幣帛點檢模 ヘイハクテシケン 昭和四年度(圖版参照) 一函

奉幣ノ御儀中ニ行ハル、重要ナル行事トス當日勅使參進ノ途中ニ於テ御幣物ヲ神宮祭主ニ傳ヘラル、ニツキ祭主ハ送文ヲ披見ノ後神官ヲシテ點檢セシメラル此ノ圖ハ内宮ノ御儀ヲ寫セルモノニシテ高案ノ上ニ安置セルハ幣帛ヲ入レタル楊宮、幣帛ノ前方向ツテ左側ニ列立セルハ勅使以下右側ハ神宮祭主以下ナリトス。

114 日本丸船首龍 木彫 一個

本品ハ日本丸船首ノ龍トシテ、舊鳥羽城ニ傳ハリシモノナリ。蓋シ日本丸ハ天正十九年鳥羽ノ城主九鬼嘉隆太閤秀吉ノ命ヲ受ケテ造リ、文祿ノ役ニ從ヒシ軍船ナリ。

八三 雛形丸模

木製

一個

舊鳥羽藩ニ傳來シタルモノニシテ、文祿ノ役ニ從ヒタル同船ヲ嘉永七年藩命ニヨリテ水手頭中村傳六河村傳七ノ兩人四年ノ星霜ヲ費シテ模造シタルモノナリ。

一七四 方輿

俗ニ塵取輿ト稱ス

一乘

延寶年間内宮長官藤波氏富ノ使用セシモノニシテ、明廿治二年度御遷宮山口祭ノ際造神宮使ノ御資格ニテ、神宮祭主久邇宮朝彥親王殿下ノ乗用セラレタルモノナリ。

第六室 第七室

古文書 畫圖 典籍 金石文 神都史料

三二七 建長六年十一月十七日政所下文

一通

美作國久米郡^{ハツ}和^ツ西郷地頭職讓與ニ關スル鎌倉幕府政所ノ下文ナリ。署名ノ別當陸奥守ハ平重時、相模守ハ平時頼ナリ。

三二九 正和二年美作^{ハツ}和^ツ西郷地頭職讓狀

一通

前掲建長六年十一月政所下文ヲ参照スベシ。書中ノ様律師覺實ハ密嚴院ノ僧ナルベク、相模守ハ北條高時、修理權太夫ハ北條貞顯ナリ。

三〇三八 中臣^{ハツ}祓

河邊精長筆

一卷

上田 幸吉氏寄贈

奥書、寛文元年五月吉日 大宮司精長(花押)

三三二 弘安五年院宣

一通

本書ハ左京職ノ者佛名院ノ寺領ヲ犯スヲ以テ、院宣ヲ下シテ其妨ヲ止メラレシモノナリ。

三三六 正和四年八月十四日安塔^{アソビヤウ}狀

一通

僧侶ノ遺跡讓與ニ關スル安塔狀ニシテ、署名ノ相模守ハ北條基時、武藏守ハ北條貞顯ナリ。安塔トハ武家時代ニ於テ土地ノ所有權ヲ承認スルヲ云フナリ。

三三五 元弘三年足利尊氏下知狀

一通

伊豆國走湯山密嚴院寺務職ニ關スル下知狀ナリ。署名ノ左兵衛督ハ足利尊氏ナリ。

三三四 曆應二年高師冬願文

一通

高師冬ガ東國ニ赴キ下總常陸ノ間ニ轉戦シタル時走湯權現ニ奉リシ願文ナリ。走湯權現ハ伊豆神社ノコトニシテ又伊豆山權現トモイヘリ。

三三八 康安二年四月足利義詮御教書

一通

武藏國栗木寺ノ事ニ就キ法印權大僧都經源ノ申出ノ事ニ關シ關東管領足利基氏ニ取計ラヒヲ命シタルモノナリ。栗木寺ハ一名吉祥寺ト云ヘド今詳ナラズ。

三三〇 貞治二年九月繪旨

一通

山城國宇治郡醍醐寺ノ院室三寶院ニ尾張國得全保宛行ヒタル繪旨ニシテ、署名ノ右中辨ハ藤原嗣房ナリ。

三三三 永和三年繪旨

一通

後七日御修法ノ繪旨ナリ。此御修法ハ毎年正月八日ヨリ一週間宮中眞言院ニ於テ行ハル、故ニ又眞言院ノ御修法トモイヘリ。署名ノ左少辨ハ經重ニシテ、宛名ノ報恩院ハ山城國宇治郡下醍醐ニ在リ。法印御房トアルハ阿闍梨權僧正隆源ナリ。

三三六 明和元年太政官牒

一通

東寺長者ノ補任ニシテ太政官ヨリ東寺ニ其旨ヲ牒スルナリ。

三三九 羽柴(伊達)越前政宗書狀

一通

七月十五日(慶長三年) 豐太閤病氣平癒祈願ニ關スル金蓮院宛ノ狀ナリ。金蓮院ハ京都四條金蓮寺ナルベシ。

三三〇 德善院前田玄以書狀

一通

慶長四年七月七日大佛供養ノ呪願ノコトニ關シ京都所司代前田玄以(宗向)ヨリ石田治部卿ニ宛テシ狀ナリ。

自三三六
至三三八

名家書狀

十三通

高臺院、淀君、大友義統、藤堂高次、島津家久、啓地院、片桐且元、本多中務少輔、村上周防守頼勝

片桐貞隆、片桐半之丞等ノ書狀ナリ。

二九九 井上通女筆牡丹序

一通

久留米藩有馬中務大輔家臣猿木氏ノ牡丹十二首ノ和歌ニ序シタルモノナリ。

三三五 木食上人書狀

一通

元祿三年七月東寺供養導師ノコトニ關シ治部法眼ニ宛テタル狀ナリ。木食上人ハモト近江佐々木氏ノ臣ナリ。主家滅亡後大和越智氏ニ仕ヘ越智氏亡ブルニ及ビ佛門ニ歸シテ高野山ニ入りシガ、後豐太閤ノ知遇ヲ得大佛殿造營ノ事ヲ監シテ功アリ、興山寺ヲ創建セリ。

二九三 麗女道歌

一冊

慶徳麗女自詠ノ道歌二百二首ヲ書シタルモノナリ。

三〇六 蘭和字彙

寫本

九冊

奧書ニ曰ク文政二年巳十月卒業 高州柴岡孝柔

一一三 古文尙書

宮崎文庫舊藏

十三卷

本書ノ傳來ハ奧書ノ文ニ詳ナリ。左ニ之ヲ示ス。

仁平元年六月二十五日申刻、以少納言入道摺本之釋文見合了、總州之御時、以古本竝唐本釋文所被付音義也、然而依有不審事、重所校合、古本勘物雖有委細事付、今委之摺本合點畢、不裁摺本勘物付輪應保二年四月二十六日見合或古本了、仲書江家之繼本也、披合之處其可取之事有數、仍一部所校合也
建保六年七月九日授仲光了、在御判
建長第八曆晚春十一日書點了

至此書者以摺本書寫之、以古本校點之、凡虞夏商周書者壁中舊本、隸古之遺字也、雖然改古字爲今字唐本又加此、其上

高倉上皇御讀之本又如此歟、當家尤可用之哉、但古字之體一向不可失之、仍本用今字傍附古字者也一部十三卷五十八ヶ篇、雖爲一字半字不借他人之手、偏至墨點朱點、皆用自身之功、子々孫々深韞匱內兮、不出闕外也、清原。

正和第三曆孟夏初五日以家之秘說授申生德才子、以十一代之學業終十三卷之詰訓、當時希有書也。

明經得業生 清原長隆

古文尙書合部十三卷、花崗帝正和年中、明經得業生清原長隆以家之秘說所加訓點也、手書曰以十一代之學業終十三卷之詰訓當時希有者也、且末時所謂少納言入道者藤原信西也、所謂總州者助教直講定康

乎、清原世々傳授秘本明々昭々、余偶得之珍藏有年、然今以爲希代之物奉納勢州大神宮文庫、而貽萬世洪寶表方寸微忱也、唯冀神之靈永垂鏡照、謹跋一語以爲後證。

貞享元年甲子夏四月上旬

鳥原城主從四位下主殿頭源忠房□

三六八 天球儀

一基

保井算哲（澁川春海）ノ著作ニ係リ、元祿年間之ニ天文瓊統八冊ヲ添ヘテ内宮文殿ニ奉納セリ。天文瓊統ハ現ニ神宮文庫ニ保管セリ。

三六七 地球儀

一基

元祿年間保井算哲之ヲ著作シ。内宮文殿ニ奉納シタルモノナリ。恐クハ邦人ノ手ニ成リシ地球儀ノ最初ノモノナルベシ。

二九四 二見文臺

一脚

桐材
麥林舎乙由ノ好ニヨリ作りシモノ。表ニ、二見立石ト扇子ニ梅ヲ描キ、裏ニ、二見から蒔繪やつゝく門農松、麥林（花押）ノ句ヲ書ス。

三六九 春日若宮祭禮圖

一卷

筆者不詳

奥書ニ曰ク、春日若宮ノ祭禮ノ事ハ崇徳院御宇保延元年二月廿七日中臣祐房若宮ヲ別殿ニ奉遷、同ジク二年秋九月十七日祭禮ハジメテ執行ス云々。

三六八 春日大宮祭禮圖

一卷

筆者不詳

春日大宮祭ハ清和天皇貞觀元年十一月以降、今ニ至ルマデ行ハル、所ナリ。

三三 平治物語繪詞

六卷

模寫、著色

院御所夜打卷、信西獄門卷、六波羅行幸卷、待賢門合戰卷、六波羅合戰卷、常勢卷。

平治物語ニ於ケル史的說話ヲ圖セルモノニシテ、此繪卷ノ現存セルモノ、中最著明ナルハ、（甲）院御所夜打卷、（乙）信西獄門ノ卷、（丙）六波羅行幸ノ卷ノ三卷ナリ。而シテ甲卷ハアメリカ合衆國ボストン博物館ノ藏有ニ歸シ、乙卷ハ男爵岩崎小彌太氏、丙卷ハ伯爵松平直亮ノ所藏ニ係ル。

三三〇 八幡太郎繪詞

四卷

模寫、著色

原本池田侯爵家所藏

二七八 餓鬼草紙繪

一卷

模寫、著色

原本傳土佐光長筆

佛說餓鬼道ノ想像畫ニシテ管絃樂ノ圖、妖鬼産家ヲ窺フノ圖、餓鬼變相ノ圖、地獄ノ圖ヲ描ケリ。

三三三 源氏繪物語

一卷

模寫、著色

二三 繪師草紙繪

模寫、著色 原本東京帝室博物館藏

一卷

或繪師ニ關係アル說話ヲ敘セシ畫卷物ナリ。

一八五 榮花物語繪

模寫、彩色 原本傳藤原信實筆

三卷

原本蜂須賀侯爵、久松伯爵、秋元子爵家各一卷ツツヲ藏ス。

一四〇 祇園祭繪

極彩色

一卷

徳川時代京都祇園神社祭禮ノ行列ヲ描寫シタルモノナリ。

三六一 男衾^{ヲヌス}三郎物語繪

模寫、著色 原本藤原隆相筆、淺野侯爵家藏

一卷

二七 元祿時代風俗畫

極彩色、傳菱川師房筆

一幅

元祿時代男女交遊ノ風俗ヲ描寫セシモノナリ。

三十二 類繪

模樣、原本水野子爵家藏

二卷

原本筆者土佐光興(一説土佐彈正廣周)ト稱ス。安永三年秋源琦應舉ノ模寫スル所ニシテ、詞書ハ藤貞

幹ナリト云フ。

九九 車

圖

著色、多賀常政筆

一卷

明和九年九條、西園寺兩家ノ車ヲ描シタルモノナリ。

三七 豐國祭繪屏風

極彩色

一隻

一四八 入木道教訓書

建部傳内筆

一卷

三五 近世名家書翰

十五卷

足代弘訓、山中美石、僧義門、柴栗山、中川天壽、藤貞幹、錢屋惣四郎、杉田玄白、蒔田喜六、奥田三角、木村巽齋、山中信天翁、久米幹文、瑞次郎、松田雪柯、鷹羽龍年、龍三瓦、宮崎筠圃、禪智、伊東酒造、荒木田久守、中川乙由、石崎多門、僧月俣、蘭泉、小俣蝶庵、細谷半齋、渡邊重名、植村禹言、本居大平、澤田將藏、蓬萊飄形、山口凹巷、僧操、田永世、小栗因、石潜夫、大島芙蓉、香山大學其他ノ書翰ヲ集ム。

一〇九 誓

詞

四通

米澤市 白子神社出品

上杉鷹山大儉約ヲ斷行セラル、ニ當リ、白子神社ニ祈誓セラレタルモノニシテ、其中ノ一通ハ老職色

部典膳支封上杉駿河守ノ贊同シタル誓詞ナリ、共ニ血判ノ跡明ナカルヲ見ルベシ。

三三二 槻の落葉 辨男體 考證 荒木田久老筆 一冊

二七五 明治二年伊勢行幸繪卷 中村左洲畫 二卷

宮川修祓、京町御通輩、外宮御參拜、宇治橋附近庶民奉迎、内宮御參拜(圖版參照)ノ五圖ヲ收ム。

三〇四 兩宮別宮攝社御神號 龍尙舍筆 一軸

一〇六 丹羽式部少輔御參宮之日記 一冊 岩出齋三郎氏出品

明和六祀年十一月九日丹羽式部少輔參宮ニ關スル慶徳藤太夫家ノ記録ナリ。

一〇七 秋月筑前守様御參宮諸事控 一冊 同 上

天保二年五月高鍋城主秋月筑前守參宮ニ關スル師職藤本八郎太夫家ノ記録ナリ。

三九四 天保度御蔭群參地名錄 松井敬民記 一冊

天保元年閏三月朔日御蔭參リ出始ヨリ五月廿九日終リ迄三ヶ月間諸國群參人數惣計凡三百九十三萬人ノ日々別、美麗ナル御蔭目印幟、笠書付、施行泊、施行駕籠、ハグレ人調所等ノ光景ヲ記セシモノナリ。

三九五 明和度いせ參宮御蔭之日記 森壺仙記 一冊

明和八年三月上旬御蔭參リノ原因傳説ヨリ七月廿八日御蔭終リ迄、五ヶ月間諸國人出始め、賑合、施行、山田ハグレ人改所等ノ模様ヲ記録セシモノナリ。

○上部家文書

上部家ハ代々度會神主ノ家柄ニシテ、織田豊臣兩家ノ師職タリ、當時豊臣家ヨリ神領ノ政務ヲ委任セラレ、永ク住民ノ生命ト財産トヲ保護セリ。曾テ神宮ノ頽廢ヲ慨キ、御造料ヲ寄進シ、慶光院ト力ヲ合セテ、兩宮ノ御遷宮ヲ遂ゲタルヲ初メ。幾多公共事業ニ盡シタル事績等歿スベカラザルモノアリ。

(三三三) 上部山之圖 一鋪

(三三三) 上部左近屋鋪繪圖 一鋪

(三三〇〇) 豊公朱印狀 天正十五年八月日町野左近助、上部越中守宛 一通

神都行政權ノ一部ノ委任狀ナリ。

(三三〇一) 福島正則寄進狀 二通

天正十八年十二月七日 爲ニ上様御祈禱ニ百石寄進一通。百石寄進一通

(三11011)

同 上

一通

(三11012)

文祿四年十月八日百石ヲ太閤様御拾様ノタメ、三十石ノ正則親子ノタメ祈禱料寄進ノ狀
池田勝入齋恒興書狀 一通

年缺〇正月二日 い勝入恒興(花押)トアリ。

(三11013)

羽柴照政寄進狀

三通

(三11014)

(池田輝政)

天正十九年十二月九日參河國寶飯郡片原郷内貳百石寄進

慶長六年十一月三日赤穂郡高田ノ内宇治山村宿村高四百石寄進

慶長十五年十一月廿三日淡路國ニ於テ百石寄進

(三11015)

池田次兵衛長幸寄進狀

一通

慶長十二年三月廿五日上美郡吉成百石寄進

(三11016)

池田忠繼寄進狀

一通

慶長十八年十二月四日播磨國赤穂郡高田之庄宇治山村内貳百石寄進

(三11017)

池田出雲守長常書狀

一通

年缺霜月十六日

(三11018)

池田長政寄進狀

一通

年缺十一月十六日法美郡町屋村ノ内百石寄進

(三11019)

備陽主池田繼政奉獻和歌俳句懷紙 一通

(三11020)

松平玄隆寄進狀

一通

慶長十八年十二月廿五日傍東郡平野村内三百石寄進

(三11021)

黑田筑前守長政書狀

一通

年缺壬三月十五日

(三11022)

黑田筑前少將繼高寄進狀

一通

寶曆九年二月七日年々米百石寄進

(三11023)

若原右京亮良長寄進狀

一通

慶長九年卯月廿日百石寄進

(三三三) 加藤新右衛門吉家寄進狀 一通

年缺十一月二十日知行百石寄進

(三三四) 梶原平右衛門尉寄進狀 一通

年缺二月五日百石寄進

(三三五) 石隱岐守正繼寄進狀 一通

年缺正月廿九日江北石田ニテ五拾石寄進

(三三六) 山本兵庫十之寄進狀 一通

慶長十年己正月七日田三段畑二段尾張國玉野村ニテ寄進

(三三七) 上部貞供慶長八年正月九日覺書 一冊

貞永死後越中守ト貞供トノ紛争解決ノ結果ヲ書殘セシモノナリ。

(三三八) 御竈木帳 一綴

御巫清直翁ノ附箋ニ正保二年ノ所撰トアリ。

(三三九) お、ぬの友 天明八年二月度會貞經書遺言狀 一冊

(三四五) 上部左近合印鑑 (納箱附屬) 一枚

安政二乙卯年御師上部左近御

(三四六) 天正廿年七月二日覺書 一通

上部貞嘉ヨリ久太郎宛

(三四七) 御師上部家關係大名旗本名前帳 一綴

○角屋家文書

角屋七郎次郎氏出品

天正年間伊勢大湊ニ角谷七郎次郎トイフ者アリ。小田原北條家ト濱松松平家トノ爲ニ海上通路ヲ開キ屢々其ノ用ヲ達セリ。本能寺ノ變徳川家康一揆ニ襲ハレ逃レテ伊勢白子若松浦ニ到ルヤ、七郎次郎之ヲ船底ニ隠シテ危急ヲ救ヒシ功ヲ以テ子孫代々朱印船ヲ許サレテ諸國ニ航行セリ。七郎次郎ノ孫七郎兵衛安南航海ヲ企テ、元和元年八月八幡丸ヲ載シテ彼ノ地ニ渡リ、土人ヲ娶リテ日本街ニ寺院ヲ設立シ松本寺ト名ヅク、蓋シ松本ハ其ノ本姓ナリ。爾來支那沿海ヨリ安南交趾ニ通商貿易セリ。

(二九九) 北條氏政朱印 一卷

小田原北條氏政ノ依囑ニヨリ角谷七郎次郎其ノ使者ヲ伊勢ノ神宮ト愛宕神社トニ奉納物ノ使ニ裝ハシ

自一八四
至一九五

メ濱松ナル松平氏トノ間ニ海路連絡ヲ圖リシトキノモノナリ。

德川將軍家歴代朱印 朱印船ニ關スルモノ 十二通 (圖版参照)

(一七六) 海 圖 獸革製 (圖版参照) 一枚

此ノ種ノ革製航海圖ハポルトガル人來航以來我國ニ傳ハリシモノニシテ、本品ハ七郎次郎ノ孫七郎兵衛安南航海ニ使用セシモノナリ。

(一〇七) 廻船極定書 一卷

承應二年廻船極四十四箇條ヲ兵庫辻村新兵衛尉等幕府ニ應答シタル船法ノ謄寫ナリ。

(一〇一) 船戰秘書 一卷

德川時代ニ於ケル戰船ニ關スル秘書ナリ。

(一〇〇) 公邊古文書 一卷

德川時代御朱印ニ關スル文書ナリ。

(一六七) 安南國往復書翰 一卷

(一六八) 角屋近親諸方來狀 一卷

世ニジヤがたらふみト稱スルモノ本巻ニ收メラレタリ。

(一九九) 船 旗 三旒

(一七〇) 八幡丸圖 一卷

(一七一) 角屋七郎兵衛傳記 一冊

二九三 永正十四年伊勢御師旦所沾券 一通

古來神宮ニ在リテハ私幣ヲ禁ゼラル、茲ニ於テ私人ノ委託ニ應ジテ祈禱奉養ヲ行フ者生ゼリ。コレヲ御師又ハ師職、詔刀師、御禱師等ト稱ス。長曆壽永ノ頃ノ記錄ニ其名ヲ見ル以テ由來ノ遠キヲ知ルベシ。其ノ後諸國ノ武士人民等ト特殊ノ關係ヲ結ビ、之ヲ檀家、又ハ且所、檀那、道者等ト稱シ、年々代官ヲ派シ、御祓ニ土產ヲ添ヘテ之ヲ配リ、初穂即金穀ノ供進ヲ受ケ、又檀家ハ參宮ニ方リテ其ノ御師ノ家ニ宿泊シ、初穂ヲ獻ジテ祈禱ヲ請ヘリ。隨テ檀家ハ御師ノ世襲財產タルガ如キ觀ヲ呈シ、後ニハ其ノ賣買等モ行ハル、ニ至レルナリ。明治四年神宮制度ノ革新ニ伴ヒ廢止セリ。

本文書ハ越前並近江ノ且所賣渡ニ關スルモノナリ。

二九〇 天文九年伊勢御師旦所沾券 一通

本文書ハ且所尾張渡邊民部父子一類ニ係ル沽券ナリ。

二九八一 德川歴代將軍春木家神領朱印 十通

春木大夫ハ德川將軍家ノ外宮御師職ニシテ、伊勢、遠江、越後等ニ於テ八百石ヲ領セリ。家康、秀忠兩將軍ノ分ハ古ク自火ノ爲ニ焼失シ、家光將軍ヨリ家茂將軍ニ至ル各代ノ分ヲ存ス。

二九三三 豊臣秀吉朱印 一通

文祿ノ役ニ御師椿叟太夫ヨリ陣中見廻トシテ、祓竝ニ鬘斗ヲ贈リシニ對スル挨拶ノ狀ナリ。

二九三三 淺野隼人神領寄進狀 一通

播州赤穂郡狹野村ニ於テ高十石ヲ寄進シタル、椿叟太夫宛元祿十三年六月十三日ノ狀ナリ。

二九三七 淺野長繼神領寄進狀 一通

若州遠敷郡瓜生ニ於テ高百石ヲ寄進シタル、椿叟太夫宛天正十九年七月七日ノ狀ナリ。

二九四四 淺野長晟神領寄進狀 一通

備後國三谷郡仁賀村及屋井村兩所ニ於テ高合三百石ヲ寄進シタル、椿叟太夫宛元和六年八月朔日ノ狀ナリ。

二九五五 淺野幸長神領寄進狀 一通

紀州有田郡石垣ノ内長谷川村及市場村ニ於テ、高合二百五十石ヲ寄進シタル、椿叟太夫宛慶長六年後十一月廿九日ノ狀ナリ。

二八四四 宮部某初穂寄進狀 一通

寛永五年御師千賀市左衛門ニ宛タルモノ
武運長久子孫繁昌領地加増ノ事偏ニ御祈禱ノ結果ナルヲ以テ、初穂トシ二千石ノ内高二十石ヲ寄進シ重ネテ知行加増アル場合ニハ其ノ十分ノ一宛寄進スベキ旨ノ狀。

二二三三 淺野内匠頭長矩書翰 一軸 山本末雄氏出品

將軍德川綱吉ノ厄年平安ノ祈禱ヲ德川家内官ノ御師山本太夫へ依頼越シタル書狀ナリ。

一一七〇 木村長門守感狀 銀錢 永樂通寶一枚 一分三枚添フ 二通 高松勝重氏出品

木村重成ヨリ高松内匠ノ武功ヲ表彰シタル感狀ト、豊公ヨリ拜領シタル銀錢ノスソワケノ狀トナリ。

一一四〇 御師邸神樂圖 一幅

外宮御師邸ニ於ケル神樂奉奏ノ狀況ヲ圖セルモノナリ。

二七四 神樂御飾裝束樂器圖

一卷

二八八 神樂釜

一口

舊御師神樂殿ノ所用。鈔面ニ「元祿三年庚午三月吉日天照大神宮御湯釜橋村内藏大夫紀州和歌山北町和關次郎兵衛」ノ銘文アリ。

二八六 井伊直弼攘夷祈願文

一通

嘉永七年十一月近衛少將藤原朝臣直弼豐受大神へ攘夷ヲ祈願セシ願文ニシテ、井伊氏ノ御師松田長太夫ノ舊藏ニ係ル。

九八 井伊直弼奉納刀

一口 松田健壽氏出品

白鞘、金襴袋入
嘉永七年十一月攘夷祈願ノ爲、幣帛ニ添ヘテ奉納シタルモノニシテ、其ノ御師松田長太夫家ニ傳フルトコロナリ。

九七 井伊直治奉納神鏡

一面 同上

徑八寸一分
長一尺九寸九分、反七分
在銘、備前國住長船左京進宗光、文龜三年八月吉日。彫八幡大菩薩、五大力菩薩。拵銘紀府住金原一

三〇五 宗光刀

一口

長一尺九寸九分、反七分
在銘、備前國住長船左京進宗光、文龜三年八月吉日。彫八幡大菩薩、五大力菩薩。拵銘紀府住金原一

双(華押)慶應三丁孟春作之。

昭二年十一月三日 皇太神宮ニ本山大阪毎日新聞社長ノ奉納セシモノナリ。

三〇六 氏正奉納刀

二口

白鞘、金襴袋桐箱入
長二尺四寸一分、反六分
在銘、奉納 天照皇大神宮大廣前 昭和二年十一月日藝南住藤原氏正謹作。

一〇八一 寛永八年伊勢曆

一折

(殘 缺)
伊勢曆ノ起原ハ明ナラズ。土御門家ノ曆本ヲ得テ版行シタルモノナリ。徳川時代ニ於テ宇治山田ニ曆師十數家アリテ、其ノ發行ニ係ル曆本ハ御師ノ大麻配布ニ際シ、土産物トシテ檀家ニ賜リシモノニシテ、廣ク世ニ行ハレタリ。

二八四 伊勢曆由來書

一通

享保四年京都大經師短册内匠方伊勢曆頒布抗議ニツキ曆師ヨリ山田三方會合へ差出シタルモノ、控ナリ。

二九一 箕曲作大夫曆道免許狀

一通

安政五年

二九二 曆仲間誓約書

一通

明和二年

- 1003 曆術師弟申合一札 享保八年 一通 神宮皇學館出品
- 1004 曆本末文覺 享保十三年 一通 同上
- 1005 曆仲間申合一札 寛延二年 一通 同上
- 1006 箕曲作大夫呼名土御門家許狀 天保十年 一通 同上
- 670 羽書株御請印形帳 一冊 古森收藏氏出品
- 羽書トハ神都ニ於ケル兌換券ノ稱ナリ。其ノ發行ノ起原詳ナラズト雖モ、慶長ノ比ニ始マルモノ、如シ。本印形帳ハ寛政二年羽書仕法改正ニ付、羽書株四百四人ヨリ奉行ヘ差出シタル連判請狀ナリ。
- 671 羽書手鑑 三冊 同上
- 672 神都銀札一覽 一冊 同上
- 975 明應八年相物座沽券^{アヒモ、ザ} 一通 座トハ鎌倉時代以後各地ノ市場ニ於ケル專賣店ノ稱即チ物ヲ賣ル座ノ稱。あひものハ千魚ヲイフ。
- 976 天文七年鹽濱沽券 一通

- 972 天文九年田地沽券 一通
- 973 永正十六年屋敷沽券 一通
- 977 天正二十二年畠地沽券 一通
- 651 櫛屋看板 傳恩堂和尚書、文「くしや彌九郎」 一枚 加藤齋藏氏出品
- 櫛屋彌九郎ハ山田岡本町ニ在リシ伊勢櫛製造ノ老舗ナリ。愚堂ハ美濃ノ人ニシテ、伊勢國度會郡宮本村大字藤里ナル、神護峯中山寺ニ住セシコトアリ。學徳優秀ノ高僧ニシテ、大圓寶鑑國師ノ諡號ヲ賜フ。
- 453 豊宮崎文庫表門額 文「豊宮崎文庫」 善齋道慶書 一面
- 豊宮崎文庫ハ豊受大神宮々城ノ東豊宮崎(岡本町)ニ在リ。慶長元年外宮ノ祠官出口延佳、與村弘正等相謀リ香財ヲ出シテ創建セシモノナリ。萬治三年幕府ヨリ修繕費トシテ米二十斛ノ采地寄附アリ。尋テ貴紳等ヨリ珍籍ヲ寄贈スルモノ多ク、爲ニ藏書數萬卷ニ及ベリ、明治十一年祝融ノ災ニ罹リ講堂等烏有ニ歸セシガ、圖書ハ幸ニ其ノ災ヲ免ルヲ得後神苑會ノ手ニ歸シ、明治四十四年十一月同會ヨリ神宮司廳ニ寄贈シ、今神宮文庫ニ保存ス、書庫其ノ他舊跡ハ私人ノ有ニ歸セリ。
- 293 度會氏元徳系譜 一卷

三〇〇 有栖川宮熾仁親王御懷紙 一軸
本系圖ハ元徳元年十一月時ノ祭主隆實卿ノ命ニヨリ、外宮一禰宜常昌神主ノ注進セシモノナリ。

藤波松ノ御感詠ヲ藤波家ニ下賜セラレタルモノナリ。
高くしも木すゑ見あけて深みとりちよの色そふ庭の老松。

二八五 飛梅千句 一冊
内題「俳諧之連歌」
荒木田守武自筆

第一句「飛梅やかろくしくも神の春」奥書ニ「天文九年しくれふるよは」トアリ。
守武本姓荒木田、文明十六年内宮禰宜ニ補セラレ、天文十年長官ニ上リ同十八年八月八日卒ス。和歌ニ堪能ニシテ、奉仕ノ餘暇宗祇、宗長ノ徒ト雅筵ヲ開キ連歌ノ奥旨ノ極メ、終ニ後世伊勢俳諧ノ鼻祖ト仰ガル。

二八四 世中百首 一卷
荒木田守武自筆

世中百首ハ大永五年九月庚申ノ夜一夜ニ守武ガ詠出シタル教訓歌ニシテ、伊勢論語ト稱セラル。

二八七 合點之句 一冊
荒木田守武自筆

守武ガソノ作ヲ宗祇、宗長、基佐等ノ名匠ニ批點ヲ乞ヒ其ノ秀逸ト認メラレタル句ヲ筆録シタルモノナリ。

二八二 荒木田守武辭世ノ歌 一幅

法樂千首ノ詠草ノ表紙裏ニ書ツケアリシヲ表装セシモノナリ。つゝに行道を中心にことゝへはこたへやらぬそをしへなるらん外二首ヲ記セリ。

三三八 祝 詞 一卷
荒木田守武自筆

天文八年卯月二日十禰宜荒木田守通ヘ傳授セラレシモノナリ。

三九六 伊勢新名所歌合繪 一卷
下巻、著色

此ノ歌合ハ後宇多天皇弘安九年ノ頃、祭主定忠荒木田度會兩姓ノ神主及ビ釋氏等ヲ相會シ、山田附近ニ於テ新ニ名所十ヶ所ヲ選定シテ詠セシモノナリ。判詞ハ冷泉爲家ニシテ和歌ノ筆者ハ冷泉爲相、畫ハ藤原隆相筆ナリトイフ。

二八五 文政度御蔭群參繪卷 一卷
著色
御蔭參宮人數取帳一册添フ

文政十三年諸國ニ大神宮ノ神異アリトテ拔參ノ道者群集セリ。所謂御蔭參コレナリ。本卷ハ其光景ヲ寫シタルモノナリ。

二六三 神宮私賽舊様繪卷 一卷

舊御師ノ行ヒタル私賽ニ關スル行事ヲ圖シタルモノナリ。

二八七 牛谷坂開鑿圖

一卷

牛谷坂ハ外宮内宮間ノ坂路ニシテ神宮參拜者ノ惱ミトセシトコロ。文化二年古市町千束屋久五郎私財ヲ投ジテ開鑿ヲ行ヘリ。本圖ハ當時三方會合所ヘ提出セシ圖面ノ寫ナリ。

二八九 參宮風俗圖

五幅

明治以前ニ於ケル伊勢參宮ノ風俗ヲ寫セルモノ。一、宮川外小俣村附近旅舎ノ光景。二、宮川渡船場ノ光景。三、宮川東岸中川原ノ光景。四、御師邸宅ノ光景。五、宇治橋網受ノ光景。

三三七 御蔭幟

一旒

慶應オカゲ參ニ三重縣多氣郡東黒部村飯田美郷同美紀ノ使用セシモノナリ。

一〇三 宮錢

五枚

宮錢又鳩目錢トモ稱ス。參宮ノ者錢屋ニ就キ通貨ヲ以テ之ニ換ヘ神前ニ供ヘシモノナリ。永祿ノ頃ヨリ行ハレ貞享年間ニ至リ停止セラル。

一〇三 岩戸茶碗

一個

高倉山ノ頂世俗天岩戸ト稱スル岩窟前ニ茶所ヲ設ケ岩窟參拜者ニ茶ヲ振舞ヒシ器ナリ。明治維新後廢

一〇四 小田橋擬寶珠

四基

寬永十八年春日局神宮ニ參拜シ祈願ノ爲小田橋ヲ修造シタルトキノモノナリ。

三九一 風日祈宮御橋擬寶珠

二基

銘 天照皇大神宮 奉行山口丹波守嘉永六癸丑年六月吉祥日、御鑄師 蛸路住 常保河内作

三九二 内宮第一鳥居口御橋擬寶珠

一基

銘 奉行金森山城守源可充、天保四癸巳年三月吉祥日、御鑄物師 蛸路住 常保河内作

三九三 内宮裏參道口御橋擬寶珠

一基

三九四 外宮第一鳥居口御橋擬寶珠

一基

銘 大神宮 永代奉寄進一鳥居御橋 願主京室町山村吉衛門忠直
延寶三乙卯年九月吉日造替料下馬所附前野御大工蛸路天命作

三四八 内宮宮城鳥瞰圖

一軸

三〇九 外宮宮城鳥瞰圖 同

人筆

一軸

二一〇 不見物獻進櫃

内宮、外宮、御用提灯各一張附屬

一荷

下社楠五郎氏
西村準治氏
出口誥七氏
松葉米吉氏

度會郡鶴倉村大字東宮ハ元土具又土貢ニ作り志摩國英虞郡ニ屬セリ、神鳳抄神領目錄ニ土具御厨ト稱シ由貴ノ御饌ニ不見物及干魚ヲ神宮ニ獻上セノコト見ユ、コハ其ノ容器ナリ。

二七八 付

鬘

明治以前神宮ニ在リテハ、剃髮ノ者付鬘ヲ戴カザレバ神前ニ至リ拜スルコトヲ得ザリキ。

三九七

ソモソモ太刀

獻進目錄添

二振

徳川將軍家ニ在リテハ高家ヲシテ毎年正月十日神宮ニ代參セシメタリ。本品ハ其ノ節眞劍ノ代トシテ獻進セシモノニシテ、俗ニソモソモ太刀ト稱ス。

三九六 外宮伊吹神事之圖

原本御巫清直筆
橋本鳴泉寫

一軸

一編宜祝詞奏進ノ圖ナリ、外宮伊吹神事ハ毎年九月神嘗祭及ビ六月、十二月ノ月次祭後十七日勤行ノ

神事ナリ。

一〇一八 神宮御料干鯛貢進標幟

文、太一御用

一旒

辻與右衛門氏出品

明治初年神宮長官ヨリ御贄所タル愛知縣知多郡篠島村ニ下シタルモノ、一ナリ。

一〇一七 太神宮奉獻篠嶋伊吹鯛曳之圖

木版

一枚

中西吉太郎氏出品

附記「尾張の國知多郡篠島はもと伊勢の國なりしを文祿年中に改められしとぞ、」

兩宮年中の御饌に備奉る干鯛三百六十枚は吉日をゑらみ晴雨にかゝはらず一日に得ものなすならはしにしてむかし今かはらぬ日出度ためしをかたに寫し侍るは

宮掌大内人 秦文偉トアリ。

○光明寺文書

光明寺出品

光明寺ハ宇治山田市岩淵町前田ニ在リ。天平十四年聖武天皇ノ勅ニヨリテ草創セラレシ天台宗ノ勅願所タリシガ、後醍醐天皇ノ元應年間、時ノ住僧惠觀之ヲ禪宗ニ改メキト云フ。モト前山（度會郡宮本村）ニ在リシヲ、後山田吹上ニ移セシガ、寛文年間祝融ノ災ニ罹リ現地ニ再築セリ。惠觀ハ月波禪師ト稱ス。南朝ノ忠臣結城宗廣ノ親族タリシヲ以テ、延元元年南朝ノ奥州下向軍海上風難ニ遭ヒ、宗廣伊勢

ニ漂著シ遂ニ當寺ニ客死セリ。故ヲ以テ宗廣自筆ノ軍中日記及令室ノ書簡等ヲ什襲ス。軍中日記ハ
徳川光圀大日本史ニ光明寺殘篇トシテ採收セリ。

(三六三) 結城宗廣軍中日記(國寶) 一卷

(七三) 結城入道及令室書簡(國寶) 一卷

(七一) 北畠親房下知狀 一卷

北畠親房ヨリ光明寺へ、大勝金剛法修法ヲ命ゼシモノ。文書ノ日付延元元年十二月廿一日ハ、
後醍醐天皇花山院ヲ脱シテ吉野ニ潛幸アラセラレシ當日ナリ。

(三六一) 豐臣秀吉朱印 一卷

光明寺ノ古鐘ハ後深草天皇ノ御代、常磐井入道實氏ノ寄附センモノト云ヘリ。古來神境ニ於
テハ梵鐘ヲ撞クコトヲ禁止セラレシガ、豐臣氏ノ時寺僧郡宰上部越中守ニ愁訴シ、遂ニ特許
ヲ得テ毎日二回之ヲ撞クコト、ナレリ。本文書ハ即チ是ナリ。

(七四) 永仁六年宣旨 一卷

(三三三) 足利義滿御教書 一卷
應安四年八月

大神宮領伊勢南式田及ビ光明寺領ニ對シ軍勢ノ亂暴狼籍ヲ禁ジタルモノ。

(二七九) 月波上人勸進狀 一卷

六五〇 世義寺舊地圖 寶永六年寫 一枚 瀬尾吉重氏出品

六八 經筒 土製(國寶) 一口 世義寺威徳院出品

銘文

敬白

奉施入如法經筒一口

右志者爲教豪尊靈出離生死頓證菩提施入如右敬白

治承二年七月十二日造之

願主 僧寬喜
造手 藤井成重
敬白

上古遺物

三〇三 八獸鏡 白銅製、(破損)

一面

三〇三 乳紋鏡 白銅製 一面

三〇五 六鈴鏡 白銅製、(破損) 筑前國糸島郡周船寺村大字飯氏發掘 一面

三〇六 三獸鏡 白銅製、(破損) 一面

一六八 内行花紋鏡 白銅製、(破損) 銘長宜子孫 豐後國仲津郡(村名不詳)發掘 一面

三三九 雙獸鏡 白銅製 伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘 一面

三七一 四獸鏡 白銅製 伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘 一面

三二四 勾玉砥石 出雲國八束郡玉造村ト湯町トノ境花仙山ヨリ發掘 二個

三三七 勾玉 碧玉岩製 伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘 一個

勾玉ノ起原ハ未開ノ代ニハ獸類ノ牙或ハ寶玉等ニ紐ヲ貫キテ裝飾トナシタルモノナレバ勾玉モ其一ノ種ナルベシ。

三三五 異形勾玉 青色玻璃製 一個

三〇九 管玉 碧玉岩製 五個

古史ニ竹玉トイヘルモノ、一種ナルベシ。

二四一 切子玉 水晶製 十五個

二四四 丸玉 縞珉瑯製 二個

二三四 白玉 滑石製 伊勢國度會郡神路山發見 百四十二個

二三八 棗玉 銅質鍍金 一個

二七五 小玉 淺青色及淺綠色玻璃製 百五十六個

二四六 金環 十個

銅ニテ造レル環ノ表面ヲ金ニテ包メルヲ金環ト云ヒ、銀ニテ包メルヲ銀環トイフ。稀ニハ中空ノ金銀環モアリ。是等環ノ所用未ダ悉ク明ナラザレドモ、中ニハ耳環ニ用ヒタルモノモアルベシ。

二七八 金環 連環 一個

二七九 銀 環

四個

二四九 銅 環

一個

二三八 銅 釧

一個

釧トハ手首ヲ飾ルモノニシテ、玉釧(玉ヲ緒ニテ貫ケルモノ)銅釧等アリ。銅釧ノ周邊ニ若干ノ鈴ヲ鑄著ケタルヲ鈴釧ト名ヅク、鈴釧ノ名古史ニ所見ナント雖モ、手鈴トイヘルモノ蓋是レナルベシ。

二三五 貝 輪

二個

コレモ一種ノ釧ナルベシ。

二三〇 三輪玉

二個

碧玉岩製 山城國綴喜郡草内村大字飯岡發掘

碧玉岩製 山城國綴喜郡草内村大字飯岡發掘

俗稱狐鉄石、碧玉岩製

一個

一六〇 刀 身

一振

車輪石ト鉄形石トハ其ノ用法詳ナラザレドモ、貝殻ニテ造リシ裝飾具ノ變遷セシモノナルベシ。上古ノ刀身ハ眞直ニシテ殆ド反リナク、平作ニシテ鑄ナキヲ常トス。莖ニハ二所以上ノ目釘孔アリ。鐵製ノ目釘ノツキタルモノ往々存ス。

一五八 太刀殘缺 金銅金具 筑前國怡土郡(村名不詳)發掘

一振

鐵製 上古ノ鐔ハ後世ノ如ク圓形又ハ木瓜形ノモノナク必倒卵形ナリ。

一五三 鐔 金銅製、噴出 一個

一四一 鐵 銚身 上野國碓氷郡原市町大字原市發掘

一本

一三八 太刀柄頭附屬 鷹目 金銅製

一個

一四五 銅 鍬 上野國碓氷郡原市町大字原市發掘

一個

一四三 鐵 斧 備前國邑久那美和村大字西須惠發掘

一個

二三七 鐵 鍬 伊勢國飯南郡松尾村大字立野字淺間發掘 四個

一六三八 石 鍬 碧玉岩製 近江國野州郡天王山發掘 三個

一六四二 轡鏡板殘片 鐵地金銅張 一個

鏡板トハ轡ノ兩側ニアル板ナリ。上古ニアリテハ其形種々アリシガ、近世ハ多ク丸ニ十字形ヲ用ヒタリ。

一六〇六 馬具杏葉 鳳凰透模樣 一個

杏葉ハ胸懸、尻懸等ニ垂下セル裝飾ニシテ、轡ノ鏡板ノ如ク其ノ形種々アリ。杏葉ノ名ハ中古後ノ飾馬ニ用ヒルトコロノ形ニヨリ稱セルナリ。

一五七六 馬具杏葉 金銅唐草模樣透彫 一個

一六三三 馬具雲珠 金銅製 一個

雲珠ハ尻繫ノ上ノ裝飾ナリ、而シテ形ノ小ナルハ革具ノ辻金物ト知ルベシ。

一六六九 鞍殘片 一個

一四〇三 馬 鐸 青銅製、(破損) 一個

鞍ハ鞍ノ前輪後輪ニツキテ胸繫尻繫ヲ留ムル具ナリ。馬鐸ハ唐鞍ノ胸繫ニ垂下シタル具ナリ。

一四八六 金銅器殘缺 唐草模樣アリ、七鈴付 遠江國濱名郡赤佐村大字根堅發掘 一個

一四三二 提瓶 一個

提瓶ハ酒水等ノ飲料ヲ携帶スルニ用ヒタルモノナレバ形扁平ナリ。兩肩ニ鑲狀ノ耳アリテ紐ヲ著クルニ便セルハ、其ノ最完備セルモノニシテ鈎狀ノ耳アルハ稍省略セルモノナルベク、單ニ瘤狀ノ耳アルハ原意ノ名殘ヲ留メタルモノナリ。而シテ本品ハ其ノ痕跡ヲモ留メズ。

一四九 提瓶 雙瘤耳付 一個

一四三八 提瓶 雙鈎耳付 一個

一〇七三 提瓶 雙環耳付 一個

一〇三三 盃 一個

- 一〇五 脚付盃 盃ハ坳トモ書ス。即チ碗ニ同ジ、其ノ形球狀ニ近ク坏ヨリ深シ。 一個
- 一一四 絲底付盃 イトソコフキマリ 一個
- 一一六 坏 フキ 一個
- 一二四 高坏 タカフキ 一個
- 一四〇 子持高坏 コモチツカフキ 筑前國絲島郡怡土村字東發掘 一個
- 一五六 坩 フボ 遠江國濱名郡赤佐村大字於呂發掘 一個
- 一五二 三脚付坩 ミツアシフキ 坩ハ壺ニ同ジ、盃ノ口窄マリタルヲ云フ。 一個
- 一三五 長頸坩 ナガクビ 一個
- 一一六 醜 ハヤフ 一個

- 一四四 醜 横瓮形 一個
- 一四八 小坩付醜 一四〇九裝飾付臺ノ上ニ裝置ス 一個
- 一四九 裝飾付臺 明治十六年筑前國早良郡金武村大字羽根戸發掘 一個
- 一四八 甕 双環耳付 筑前國絲島郡櫻井村發掘 一個
- 一四三 瓶 筑前國早良郡古墳ヨリ發掘 一個
- 一四〇 平瓶 瓶ハ其ノ頸坩ヨリ窄マリタルヲイフ。 双環耳付 一個
- 一四七 横瓮 平瓶ハ正シク訓メバひたいかめニシテ平居瓶ノ意ナリ。 一個
- 一五四 脚付坩 素燒 尾張國海東郡諸古村大字諸桑字錢龜發掘 一個

醜ハ口擴ガリテ漏斗狀ヲナシ身ノ側面ニ孔アリ。コノ孔ハ竹管ヲ挿入シタルトコロナリ。

- 一四六 坏 素焼 一個
- 一四八 高 坏 素焼 一個
- 一四五 脚付 盃 素焼 一個
- 一四〇 埴 素焼 一個
- 一三七 盃 素焼 一個

石器時代遺物

日本太古ノ住民ノ一タル石器時代ニ作りタル利器其ノ他ノ石器ナリ。石器時代トハ太古石器ヲ使用セシ時代ニシテ其ノ人種ノ日本人ト異ナリタルモノナルコトハ明カナルモ儘ニ何人種ナリトノコトハ未ダ云フヲ得ズ。最モ似タルハ現存極北地方住民例セバ悉きモノノ如キ者ナリ(故理學博士坪井正五郎氏解説抄録、以下同シ)

- 一九五 錘スライ 石セキ 下總國香取郡貝塚村發見 一個

網ノ錘ナドニ用ヒシモノナラン。

- 一四五 石 庖力 筑前國嘉穂郡發見 一個
- 一八四 石 棒 筑前國生葉郡發見 一個

大小精粗類品多ク其ノ用モ一様ナラズ、コハ小ニシテ精ナルモノナリ。恐ラクハ護身器トシテ用ヒラレシモノナラン。

- 一七九 石 鏃 陸奥國中津輕郡高杉村發見 三個
- 一八七 石 錐 陸奥國膽澤郡金崎村澤二台發見 四個

獸皮ヲ綴リラ衣服其ノ他ノモノヲ作ル場合又ハ土器ノ破レタルヲ修覆スル場合ニ錐ノ用ニ供シタリト見ユ小玉ニ孔ヲ穿ツニ用ヒシ證アリ。

- 一九〇 石 槍 五個

- (一) 羽後國雄勝郡西成瀬村大字吉野發見。
- (二) 陸中國岩手郡瀧澤村大字鶴飼發見。
- (三) 羽後國北秋田郡綴手村大字畑發見。
- (四) 陸前國遠田郡北浦村字彫壺發見。
- (五) 陸前國遠田郡筥嶽村大字小里小字四軒屋敷發見。

ノヲ使用ス。

一八三 扇形石匙

石匙ハ形ニヨリテカク稱スレドモ、鳥獸ノ皮ヲ剥グ時ナドニ用ヒルモノナリ。

六個

一八二 木葉形石匙

武藏國荏原郡上沼村發見

九個

一八一 打製石斧

打缺キテ双ヲ作りタルヲ打製石斧トイフ。

四個

一九六〇 磨製石斧

研ギ磨キテ双ヲ作りタルヲ磨製石斧トイフ。

一個

一八四八 獨鈷石

獨鈷石ハ形ニヨリテ名ケタルモノニシテ一種ノ武器ナラン。

二個

五六三 食物製用具

此類ノ石器ハ形ニヨリテ石冠ト呼バルレド實ハ植物ノ實ヲツブシテ粉ヲ作り、或ハ葉根ナドヲ搗キチ食物トスルニ用ヒル器具ナリ。

一個

一八七 小玉

陸奥國西津輕郡森田村石神石器時代遺跡發見

七個

一八〇 土器

常陸國稻敷郡福田發見

一個

一八一 土器

陸奥國三戸郡和名井村發見

一個

二〇八 土器把手種類

六個

三〇 土器

底面ニ繩代形ノ跡アルハ製造ノ際用ヒタル敷物ノ痕ナリ。

三三 土器

陸中國西閉伊郡宮村字塚發見

一個

三三 土器

下總國香取郡阿玉臺發見

一個

二〇七 土器破片(裝飾ノ種類)

三個

(一) 土器ノ面ニ高低ヲ作りテ裝飾トシタルモノ

(二) 原料ノ土中ニ雲母ヲ混ジテ裝飾トシタルモノ

(三) 同上

二〇四 土器破片(裝飾ノ種類)

六個

- (一) 沈模様及浮模様
- (二) 押付模様及畫キ模様
- (三) 網紐ヲ竝ベタル如キ模様
- (四) 波線ヲ畫キタル模様
- (五) 線ノ部分ニ高マリヲ設ケテ裝飾トセシモノ
- (六) 平行線ヲ畫キタルモノ

二〇五 土器破片(裝飾ノ種類)

七個

- (一) 櫛ノ如キモノニテ線ヲ畫キタルモノ
- (二) 管ニテ突キタル跡アルモノ
- (三) 粗キ櫛ノ如キモノニテ線ヲ畫キタルモノ
- (四) 紐ヲ押付ケタル如キ跡アルモノ
- (五) 竹管ヲ割リテ撫デタルガ如キ跡アルモノ

二〇六 土器破片(底部ノ種類)

五個

- (六) 土ニテ紐様ノモノヲ作り指先ニテ押付ケタルガ如キモノ
- (七) 筵ノ如キモノヲ押付ケタルモノ
- (一) 臺ノ高キモノ
- (二) 臺ノ低キモノ
- (三) 木葉ノ跡アルモノ
- (四) 篋ニテ磨リ均シタルモノ
- (五) 網代形ノ跡アルモノ

一八七 土器ノ底部ヲ飾リタルモノ

常陸國稻敷郡高田村椎塚發見

一個

一八八 土器破片(廢物利用)

二個

- (一) 破損シタルヲ接ギ合スタメ穴ヲ穿チタルモノ
- (二) 破損シタルモノ、破レ口ヲ磨リ減ラシ、倒ニシテ壙ニシタルモノ

一八六 貝塚發見ノ貝

八個

石器時代人民ノ食用ニ供シタル貝ノ種類ヲ示ス。

一九三五 貝輪破片 常陸國稻敷郡高田村椎塚發見

一個

腕輪其他身體裝飾品トシテ用ヒタルモノナラン。

一八六九 角 器

二個

(一) 鹿角製槍(或ハ鉾)陸前國氣仙郡小友村瀬澤發見

(二) 鹿角製裝飾品 常陸國稻敷郡陸平發見

一八七〇 骨 器

五個

(一) 出所不詳 (二)(四) 常陸國稻敷郡陸平發見

(三) 常陸國稻敷郡福田發見 (五) 常陸國稻敷郡高田村塚發見

五五九 土 偶

一個

陸奥國二戸郡爾薩體村字佐久間發見

五六〇 土 偶頭

一個

陸前國遠田郡沼部村字小鹽發見

五六一 土 偶胴

一個

出所同上 陸前國遠田郡笠嶽村字小里

五六二 土 偶頭部

一個

小字四軒屋敷發見

是等ノ土偶ハ皆石器時代ノ遺跡ヨリ發見セラレタルモノニシテ製作ノ精巧ナルアリ、粗末ナルアリ。甚シク省略シタルモノニハ頭モ手足モ判然セズ、唯土製ノ盤ノ如クニ見ユルモノアリ。斯ク形ニハ重キヲ置カズシテ其意ノミヲ寓シタルモノアルヨリ推測スレバ土偶類ハ小兒ノ玩具ニアラズシテ宗教上ノ偶像又ハ守リノ類トシテ作ラレタルモノナラント考ヘラル。但シ形ノ基ク所ハ當時ノ風俗ニ在ルベケレバ信仰ニ關スル事ノ他衣服身體裝飾ノ事ヲ考フル爲メニモ、此類ノ品ハ極メテ有益ナルモノナリ。

第八室 第九室

神宮御裝束御神寶撤下御物

神宮祭器 祭具

一九七三 笠 菅製

一個

一九七四 蓑 同

一個

以上二點ハ神宮風日祈御祭儀御料ナリ。

六〇七 丸マール 飯ヲシキ 神饌ノ米ヲ蒸ス御器

二六三 小土塙サウダ 祭典ノ節手水用

自二五五 至二六一 祭儀用土器 三寸土器、四寸土器、六寸土器、
水碗、酒壺、御箸臺、御盃臺

神宮大御饌ニ用フル土器調製ノ起源ハ、皇大神美濃國伊久良河宮ニ御遷幸ノ時、同國安女忍比賣之ヲ
獻ゼシニ初マリ、五十鈴宮ニ御鎮座ノ後ハ、伊勢國多氣郡宇爾郷ニ居住シ、年中祭祀ノ土器ヲ調進シ
其ノ子孫世々祖業ヲ襲ヒテ神宮ニ奉仕セリ、後世幾多ノ變遷アリシモ明治十五年之ヲ復舊シ、モトノ
宇爾郷ナル明星村大字菘村ニ於テ、調製納入スルコト、ナレリ。

六二六 御鹽燒型イシホヤカ

神宮御料ノ御鹽ハ、皇大神二見ニ御遷幸ノ時佐美都日女ノ獻納ニ始マリ、大若子命御鹽濱竝ニ御鹽
山ヲ定メ、其ノ山ノ木ヲ伐リテ御鹽ヲ燒キ進メラレタルニ基因シ、今モ二見ノ御鹽田ニテ調進ス。即
毎年夏期御覽濱ニテ水潮ヲ汲取り、殿内ニ於テ燒堅メ、之ヲ荒鹽ト稱シ御鹽殿ニ貯藏シ、必要ニ應ジ
テ更ニコノ燒型ヲ以テ堅鹽ニ精製シ御料ニ供ス。

二五三 火鑽具ヒカリ

神宮忌火屋殿(御炊殿)ニ於テ神饌品ヲ調理シ奉ル時ニ用フル忌火ヲ出テ具ナリ。

二四七 火桶ヒツケ 油皿、燈心添フ

二四八 結燈臺ムスビトウダイ 油皿、燈心添フ

祭事ニ神前ニ用ヒラル、燈火ノ具ナリ。

六二五 瓶子ヘイ 子シ

六二三 簀ス 皿ザラ

六二六 耳ミミ 皿ザラ

六四八 饗膳案キウゼン 案アヒ

以上四點ハ神宮遷宮奉幣又ハ杵築祭等ノ節、饗膳ニ用ヒラル、モノナリ。

一四〇 楊ヤナ 宮ヤコ 包布添 大、中、小

- 一具
- 一個
- 一基
- 一個
- 二個
- 二個
- 一個
- 二個
- 一個
- 三合

大ナル御器ハ正宮ノ祈年祭、神嘗祭、新嘗祭、中ナルハ正宮ノ月次祭及ビ別宮ノ祈年祭、新嘗祭。小ハ別宮ノ月次祭ニ幣帛奉納ノ御用器ナリ。其ノ幣帛ハ各五色絹、木綿、錦、麻ニシテ別宮ニハ錦ハ奉納アラセラレズ。

六〇一 楊 宮

二合

朝廷ヨリ金幣ヲ奉納アラセラル、時ノ御料ナリ。

一四一 楊 宮

二合

昭和三年十一月廿二日皇大神宮御親謁祭御料、錦一、兩面錦一、白綾一、五色綾五、白帛一、細布一

一三八 楊 宮

一合

昭和五年三月廿六日皇大神宮震害復興奉告臨時祭御料

一〇九 五色絹

五疋

(青、黄、赤、白、黒)

一一〇 麻

一兩

一一五 木綿

一兩

一一三 錦

一端

一一四 絹

一疋

以上五點ハ朝廷ヨリ神宮ヘ奉納アラセラル、幣帛ナリ。

一一二 幣案

一脚

一一一 神御衣櫃

三合

大ニハ荒妙、中ニハ和妙、小ニハ糸針ヲ納メ奉ル。

一一〇 大御饌用折櫃

一合

一〇九 足高辛櫃

一合

一〇八 玉串案

一脚

一〇七 御箸

二隻

三九五 配

筒

(古祭器) 繪曲物高六寸五分徑七寸

一合

横地 晃重氏寄贈

明治初年神宮御改正以前マデ皇大神宮御饌祭ニ用ヒラレシモノナリ。

神宮諸祭畫圖 古文書

三九九 昭和四年度式年遷宮繪卷

(高取稚成畫) (子爵入江爲守詞書)

十二卷

御裝束神寶讀合、川原大祓、齋館前庭列立、修祓、玉串行事、出御奏上、遷御、荒祭宮遙拜、大御饌奉幣、饗膳、神樂ノ十二圖ヲ收ム。大阪市小學校生徒陳金ニヨル、昭和四年度式年遷宮奉贊會ヨリ神宮へ奉納ニカ、ルモノナリ。

三五〇 文化度外宮御遷宮繪圖

二卷

上卷 宮川々原潔齋所、京町入口松原、筋向橋高札、宮後表高札、北御門奉行番所、杵築祭、讀合、九丈殿、五丈殿、送文、丸辻高札、一ノ鳥居稻垣信濃守番所、勅使祭主二鳥居御鹽行事、遷御。下卷 御正殿平面圖、御形概、御神寶圖。

三四八 嘉永二年豊受大神宮遷宮式圖

一卷

三五一 明治四十二年皇大神宮遷宮式圖

一卷

三五〇 明治四十二年豊受大神宮遷宮式圖

一卷

三五三 明治四十二年皇大神宮上棟祭竝宇治橋渡初式圖一卷

上棟祭ハ神宮御造替諸祭中ノ御棟木奉揚ノ祭儀ナリ、大宮司、少宮司、禰宜以下諸員及造神宮主事、枝師、屬、技手、忌銀治、小工等參列シ、大宮司以下諸員棟木奉揚ノ式ヲ行ヒ、次ニ神饌奉奠、祝詞奏進、諸員奉拜ノ儀アリテ祭儀ヲ了ル。

宇治橋ハ皇大神宮城内ヲ流ル、五十鈴川ニ架セル橋ニシテ、造替ノ度毎ニ渡初ノ式ヲ行フ。先ヅ橋姫神社ニテ祭儀アリ。ソレヨリ渡女以下行列ヲ整ヘテ渡初式ヲ行フ。渡女ハ宇治山田市及度會郡内ニ居住セル一家三夫婦揃ヘル者ノ中ヨリ選ビ、其ノ子孫ハ附添トシテ、特ニ其列ニ加ハルコトヲ許サル。

三五四 文化度宇治橋渡初式圖

大國士豊筆

一幅

四八五 神宮御造替御木曳圖

明治四十二年度

二卷

御木曳トハ神宮御造替ニ當リ、古來神領ノ人民努力ヲ獻ジテ、御用材ヲ兩宮城内ニ搬入スルヲ云フ。古皇大神宮ノ御柚山ハ神路山豊受大神宮ノ御柚山ハ高倉山ナリシガ、後世材ノ缺乏又ハ戰亂ノ爲各地

ニ變更セラレ、近代ニ至リ兩宮共木曾山ニ定メラレタリ。

御料材ハ之ヲ大湊貯木場ニ、同漕シソレヨリ内宮御料材ハ鹿海貯木場へ、外宮御料材ハ之ヲ宮川貯木場ニ移シ、先ヅ吉日ヲ選ビテ兩宮ノ御穂代木(御祝木)ノ奉曳式ヲ行フ。(明治二十二年度ヨリ造神宮使廳ノ手ニテ行ハル)次ニ内宮ノ御料材ハ舊内宮領ノ町村民五十鈴川ヲ奉曳シ、外宮御料材ハ舊外宮領ノ町村民中島町ヨリ之ヲ木曳車ニ積載シテ陸上ヲ宮城ニ奉曳ス。其ノ狀各大字又ハ町村毎ニ團體ヲナシ夫々意匠ヲ凝ラシタル行粧ヲナシ各人家事ヲ願ミズ奉曳ノコトニ從フ、實ニ神都ノ一偉觀タリ。

1000 大杉谷御材木山出圖

一卷 神宮文庫出品

多氣郡大杉谷御材山ヨリ寛政度御造營材伐出ノ狀況ヲ描ケルモノ。

1001 大杉御材山切出圖

一軸 中道忠雄氏出品

同御材山ヨリ萬治、寛文、元祿、天明年間ニ御用材伐出ノ場所ヲ明示シタルモノナリ。

四八六 皇大神宮元日御饌神事御鹽奉仕圖

一卷 神宮文庫出品

皇大神宮元日御饌神事參進圖
豐受大神宮元日鮎饗神事御鹽奉仕並參進圖

1008 内宮御神寶圖

一卷

明治四年神宮御改正以前ノ祭儀圖ナリ。

奥書、安政五年六月十七日調製 行事官 以昌

箱書 安政五年戊午夏六月廿二日丙寅

公卿勅使御參宮御奉納神財之圖

九 御田植式圖

一卷

皇大神宮御常供田御田植式ノ圖ナリ。此神事ハ内宮ハ四郷村大字補部、外宮ハ岡本町宮崎ナル御常供田ニテ、毎年五月吉日ヲトシ行ハレシガ明治四年廢セラレ。

四四 齋内親王參宮圖

御巫清直考證
中村左洲畫

一卷

齋内親王ハ齋玉トモ申シ、又御座所ニ由リテ齋宮トモ申ス、大御神ノ御杖代トシテ親シク神宮ニ仕ヘ奉ラシメ給フ。崇神天皇ノ六年皇女豐劬入姫命ヲシテ大御神ヲ倭ノ笠縫邑ニ祭ラシメ給ヒシ以來、皇女ヲ以テ之ニ任ジ給ヒシガ、後醍醐天皇ノ皇女祥子内親王以後ハ全ク廢絶ス。

齋内親王ノ神宮御參宮ハ神嘗祭及ビ兩度ノ月次祭ノ三回ニシテ、御參宮ノ前月盡日、竹川又ハ尾野湊ノ御禊アリ。期月十五日齋宮寮御發輿離宮院御駐輿。十六日豐受大神宮ニ御參向、祭典終リテ後離宮院

ニ還啓ス。十七日皇大神宮ニ御參向、祭典終リテ後離宮院ニ還啓、十八日齋宮寮ニ還啓シ給フ例ナリキ。

五八四 永仁四年八月應宣

チャウセン

一通

此ノ應宣ハ光明寺舊記中卷ニ收ムル文書ノ本書ニシテ、文意ハ伊勢國三重郡船橋ノ住人乘光ト云フ者同郡ナル平松神田二段ノ内若干歩ヲ恣ニ耕作スルヲ以テ、法常住院領雜掌度會有長ノ訴ニ由リテ、之ヲ禁遏セントスルニ在リ。

凡ソ應宣トハ檢非違使廳別當ノ下文ヲ云ヘド、此處ナルハ往古我神宮ニ稱セル處ノモノニシテ、神官相集リテ宣フル下文ナリ。其書式ニ於テハ必ズ在職神官正員全部ノ職名アレドモ、其ノ下ニ署名セザルモノハ當日不參ノ人ナリ。

五八五 正徳三年大内人補任狀

オホウチノド

一通

此ノ祭主下文ハ官掌大内人職ノ補任、所謂本職ノ任狀ニシテ、今謂フ所ノ辭令ナリ。明治四年以前神宮職員ノ任命ハ彌宜ニ在リテハ宣旨ヲ以テ之ニ補シ、權彌宜大内人官掌等ハ祭主之ヲ補ス。偕此ノ下文ハ祭主ノ政所代ノ請求ニ應ジテ、祭主ヨリ祭主署名ノ任狀同文ノモノヲ一回ニ三十六枚ヲ政所代ニ送ル祭主山田ニ來リ司家或ハ政所代ノ家ニ泊スル時ハ無政所代ハ之ヲ司家ニ送り、司家ハ之ニ大司記名ノ本職若干枚ヲ贈リテ其ヲ料ニ代フルコトアリ。

署名ノ奉行文ヲ記シタル一紙ヲ繼ギ合セテ之ヲ宮政所ニ送ル、宮政所ハ又此ノ奉行文ニ正員連署政印ヲ行ヒタル一紙ヲ繼ギ合セテ之ヲ司家ニ返戻ス。史家ハ之ヲ政所代ニ分與シ、其餘ヲ己ガ家ニ留ム。茲ニ於テ本職ノ任命ヲ請フ者ハ司家又ハ祭主ノ政所代ニ申出ヅレバ、其家ニテ本人ノ氏名奏某ヲ選定シ、此ノ繼合セタル初メノ一紙、即チ祭主ノ下文ニ其ノ名ヲ記入シテ之ヲ本人ニ附與スルナリ。以上ハ改正前彌宜タリシ松木傳彦氏ノ談ニ由リテ之ヲ記ス。

一〇〇八 慶長十四年文書

一幅 神宮文庫出品

慶長十四年八月十九日正遷宮日時ニ關スル内宮彌宜ノ解狀ナリ。

一〇〇九 公文翰林抄 下

一冊 同 上

鎌倉時代兩宮關係ノ公文書ヲ收録シタル祭主家ノ記録ナリ。

一〇一〇 御木曳幟

一旒

寛政度神宮御造營材奉曳ノ節山田二俣町ノ使用セシモノナリ。(神宮御造營御木曳圖解説參照)

神宮寶物

四〇 御 鞆

寛正三年御遷宮奉納ノ古神寶ナリ。

一枚

四七 御太刀殘缺

明治二年皇大神宮東御敷地、内玉垣北御門良ノ方ヨリ發掘ノ古神寶ナリ。

三柄

三八 皇大神宮政印

天武天皇白鳳年間、禰宜荒木田神主石門ノ解狀ニヨリテ、神祇官上奏シ、宣旨ヲ賜リテ鑄下セラル、即皇大神宮政印ノ始ナリ。其ノ後承暦三年二月二十二日、外院ノ炎上ニ際シ燒失セシヲ以テ、同年七月二十三日原形ニ模シテ再ビ鑄下セラル。

一顆

九三 皇大神宮政印印筒

承暦三年七月二十三日政印ト共ニ寄進セラレタルモノナリ。

一合

三〇 豐受大神宮政印

貞觀五年九月十三日、禰宜度會神主眞水ノ解狀ニ依リテ、神祇官上奏シ、内宮政印ノ例ニ準ジテ鑄下セラル。

一顆

三一 豐受大神宮政印印筒

元木造ナリシヲ、承徳二年十二月二十六日銅ニ改鑄セラル、側面ニ「宣旨奉造承徳二年十二月二十日六日子」ト彫メリ。

一合

三五 大神宮司印

天平十一年二月二十三日、神祇官ノ上奏ニ依リテ始メテ之ヲ鑄下セラル。寶龜三年宮司ノ宿館燒亡シ其ノ災ニ罹レリ。後仁壽三年十一月三日、大神宮司大中臣朝臣伊度人ノ解狀ヲ以テ、神祇官ヨリ上奏シ齊衡二年八月十日、原形ニ模シテ再ビ鑄下セラル。

一顆

三三 大神宮司印筒

元木製ナリシヲ、長徳四年五月二十日銅ニ改鑄セラル。側面ニ「大神宮司正印筒元木彫也而大司公忠長徳四年五月二十日鑄改於銅」ト彫メリ。

一合

三五 内宮文殿額

文殿ハ齋館内ニ設ケラレ古代ハ神書記録文書等ヲ藏メラル、庫藏ナリシガ、後ニハ別ニ神庫ヲ創立シ文殿ハ神官ノ講習討論或ハ記録勘考ノ場所ニアテラレタリ、明治維新後廢セラル。

一面

三八三 貝

桶 貝百八十八對添フ

一對

慶長十二年新上東門院ヨリ、内宮子良館ニ賜ハリシモノニシテ、貝ノ歌ハ宸筆ヲ始メ女院、時ノ禪閣
關白大臣等、高貴ノ人ノ書カレタルモノナリトゾ。子良トハ、朝夕大御饌、其ノ他祭典ニ奉仕セシ、
童女ノコトナリ。

三八二 御田扇

二本

豐受大神宮御常供田御植神事ノ田舞ニ用ヒシモノナリ。

○徳川將軍奉納太刀身

三八一 一文字作

長二尺三寸二分、双文丁字、在銘一文字
將軍家光皇大神宮ニ奉納

三八七 來國行作

(無銘)長二尺三寸二分、双文半ヨリ上廣直下丁字リ
將軍家光豐受大神宮ニ奉納

三八八 吉信作

長二尺七寸四分、双文直及丁字交裏樋アリ 在銘吉信
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

三八九 康光作

長二尺四寸七分、双文逆亂、在銘康光
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

三九〇 長光作

長二尺六寸一分五厘、双文直及、在銘長光
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

三九一 助長作

長二尺三寸九分、双文直及小丁字交、彫物梵字、在銘助長
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

三九三 長光作

長二尺三寸七分五厘、双文大丁字、在銘長光
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

三九三 友成作

長二尺四寸五分、双文小亂交逆心フクラノ内二重及、在銘友成
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

三九四 守次作

長二尺五寸三分、双文直及沸付、在銘守次
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

三五三 俊忠作

長二尺四寸九分五厘、双文直及亂交ル、在銘俊忠
將軍家宣皇大神宮ニ奉納

五五四 國俊作

長二尺五寸三分、双文直及佩裏ニ逆亂交ル、在銘來國俊
將軍家宣皇大神宮ニ奉納

五五五 守次作

長二尺二寸七分五厘、双文亂五ノ目交リ表裏樋二筋、在銘守次
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

五五六 助久作

長二尺四寸二分五厘、双文丁字、在銘助久
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

三九八 正恒作

長二尺三寸二分、双文直及亂交ル、在銘正恒
將軍家綱皇大神宮ニ奉納

- 三九七 吉包作 長二尺二寸九分五厘、双文直双、在銘吉包
- 將軍吉宗皇大神宮奉納
- 三九五 景依作 長二尺三寸六分、双文小亂直双交ル表裏樋アリ、表銘備前國住人左近將監依造
- 裏銘永仁六年十月日。將軍吉宗大神宮奉納
- 二九 國永作 長二尺五寸一分、双文小丁子、在銘國永
- 將軍吉宗豐受大神宮奉納
- 三九六 國俊作 長二尺三寸七分五厘、双文直双足入佩裏中央ニ丁子アリ、在銘來國俊
- 將軍吉宗豐受大神宮奉納
- 四〇〇 助吉作 長二尺三寸六分、双文丁子、在銘助吉
- 將軍重皇大神宮奉納
- 五五七 守友作 長二尺五寸一分、双文直双中央ヨリ下丁子心ニ亂ル、在銘守友
- 將軍重豐受大神宮奉納
- 四〇二 助宗作 長二尺三寸九分、双文逆足丁子箱ニカブル、表銘一文字、裏銘助宗
- 將軍家治皇大神宮奉納
- 四〇一 信房作 長二尺三寸五分、双文直双小亂交ル、在銘信房
- 將軍家治皇大神宮奉納
- 五五八 國光作 長二尺四寸三分、双文直双亂交ル、在銘國光
- 將軍家治豐受大神宮奉納
- 五五九 遠近作 長二尺三寸二分五厘、双文丁子、在銘遠近
- 將軍家齊皇大神宮奉納

- 四〇三 雲生作 長二尺三寸四分五厘、双文直双、在銘雲生
- 將軍家齊豐受大神宮奉納
- 五六〇 正廣作 長二尺三寸四分五厘、双文直双、在銘肥前國河内大掾藤原正廣
- 將軍家慶皇大神宮奉納
- 五六一 忠廣作 長二尺三寸五分、双文亂、在銘肥前國住近江大掾藤原忠廣
- 將軍家慶豐受大神宮奉納
- 五六二 是一作 長二尺三寸五分、在銘藤原是一
- 將軍家定皇大神宮奉納
- 五六三 國正作 長二尺三寸七分、桐双五ノ目、在銘藤原國正
- 將軍家茂皇大神宮奉納
- 五六四 康繼作 長二尺三寸三分五厘、双文五ノ目亂、在銘康繼
- 將軍家茂豐受大神宮奉納
- 五六五 元繼作 長二尺三寸五分、双文丁子、在銘元繼
- 將軍慶喜豐受大神宮奉納
- 四二 太刀拵 (一文字)
- 一腰 榻銅作金覆輪菊居紋、切羽四枚金、鍮金著、目釘金、將軍德川家光皇大神宮奉納、身ハ別ニ藏ム
- 四三 太刀拵 (長光)
- 一腰 榻銅作金覆輪葵居紋、切羽四枚金、鍮金著、目釘缺、將軍德川家綱皇大神宮奉納、身ハ別ニ藏ム

四〇四 太刀拵 (正恒)

榻銅作金覆輪雲形居紋、切羽四枚金、鍍金著、目釘金、將軍德川吉宗皇大神宮ニ奉納、身ハ別ニ藏ム

四〇七 太刀

刀身長二尺三寸六分五厘、双文直刃佩表物打ニ足入、無銘、折紙大和千手院、拵榻銅作金覆輪桐居紋切羽四枚金、鍍金著、目釘金著、京都所司職伊賀守松平忠周皇大神宮ニ奉納

神宮撤下御物

○皇大神宮御料

一〇五 小紋紺綾御衣 裏 帛 納綿

一〇六 紫羅御裳 裏 縹

一〇七 御帶 緑、紫

一〇七 屋形紋錦御被 裏 白綾

一領

一腰

一條

一〇八 小窠錦御被 裏 緋絹納綿

一〇九 錦御枕 一基

一四九 新羅組 一條

一〇八 錦御履 表 青地錦、裏 黃地錦、下押 紫綾 一兩

一〇九 錦御襪 表 白地錦、裏 生絹 一兩

一〇一 御櫛筒 御櫛四枚 袋 赤地唐錦 一合

一〇三 御鏡 徑九寸、緋唐組緒、帛兩面ノ帷、轆轤宮入 二面

一〇四 御白玉 各徑 三分 四十一丸 一連

以上明治二十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

五四 御衣 宮 一合

奉座楊宮

以上明治三十三年臨時遷宮調進同四十二年撤下

- 一合 奉座楊宮
- 一柄 玉纏御太刀 タマキノオシタチ 平緒 新羅組 袋 霰網錦
- 一柄 須賀利御太刀 スガリノオシタチ 平緒 同 袋 同
- 一柄 金銅造御太刀 コンドウゾウノオシタチ 平緒 赤地唐錦 袋 赤地唐錦
- 一面 鴉尾御琴 トビノヲノオシコト
- 一張 御弓 オシユミ 袋 赤地唐錦
- 一腰 革御鞞 カハノオシユギ 鷲白羽箭三十二隻
- 一腰 錦御鞞 ニシモノオシユギ 烏羽箭二十隻
- 一枚 御鞞 オシトモ 袋 赤地唐錦

- 一口 金銅御麻笥 コンドウノオシマカケ
- 一口 銀銅御麻笥 ギンドウノオシマカケ
- 一基 金銅御櫛 コンドウノオシタリ
- 一基 銀銅御櫛 ギンドウノオシタリ
- 一基 金銅御縛 コンドウノオシツム
- 一枚 銀銅御縛 ギンドウノオシツム
- 一枚 金銅御杖 コンドウノオシカセヒ
- 一枚 銀銅御杖 ギンドウノオシカセヒ
- 一本 御正殿鯉木 カツラキ 長九尺 徑二尺二寸 重量百十九貫百五十匁

以上明治二十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

明治四十二年式年遷宮調進昭和四年撤下
御鑿木ハ内宮八十本、外宮ハ九本用ヒラル。

○豊受大神宮御料

- 一〇七 緋錦御衣 裏 緋綾 納綿 一領
- 一〇八 吳錦御衣 裏 緋綾 納綿 一領
- 一〇九 小綾帛御衣 裏 帛絹 納綿 一領
- 一〇〇 吳錦御裳 裏 帛絹 納綿 一腰
- 一〇一 紫御帶 一 條
- 一〇二 刺車錦御被 裏 緋綾 納綿 一 條
- 一〇六 紫御髻結 一 條

- 一〇五 錦御枕 一 基
- 一〇三 錦御鞆 表 赤地錦、裏 青地錦、下押 生綾 一 兩
- 一〇三 錦御襪 裏 白絹 一 兩
- 一〇九 第一御太刀 平緒 新羅組 袋赤地唐錦 一 柄
- 一〇〇 第二御太刀 平緒 同 袋 同 一 柄
- 一〇一 第三御太刀 平緒 赤地唐錦 袋 同 一 柄
- 一〇六 御鞍 鞍褥表赤地唐錦裏淺縹地錦、差繩縹紺白三捻、鞍覆赤地唐錦鞭、鞍袋、鍔架 一 具
- 一〇七 御白馬形 口取一人 一 匹
- 一〇二 御鏡 緋組紐、帛帷、轆轤篋入赤地唐錦折立 紐白平組 一 面
- 一〇三 御弓 袋 赤地唐錦 一 張

一〇四 御 鞆 袋 同

二枚

一〇五 御 胡 錄 箭三十隻

一腰

一〇六 御 雙

二枚

一〇九 御木絡練 金、銀

二基

以上明治二十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

三二一 御正殿堅魚木 長九尺五寸 徑二尺二寸 重量百二十六貫

一本

明治四十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

○皇大神宮荒祭宮御料

二〇〇 白葛御鞆 箭各四十隻

二腰

二〇三 御吳床

一具

二〇二 青毛御彫馬

一匹

以上明治四十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

○皇大神宮別宮月讀宮御料

二一八 金銅造御太刀 平緒 赤地唐錦、袋 同

一柄

二一九 銅黒造御太刀 平緒 赤地唐錦、袋 緋綾

二柄

二二〇 梓御弓 袋赤地唐錦

二張

二二三 革御鞆 箭各六十隻

二腰

二二四 蒲御鞆 箭六十隻

一腰

二二五 鶴斑毛御彫馬

一匹

二三三 御 楯

二枚

- 二三三 御 鉢 錦鱗添フ 二竿
 - 二三四 御 鈴 一口
 - 二三五 陶 猿頭形御硯 一面
 - 二〇六 金銅御火桶 火取籠、火爐、箸、匙添フ 一口
 - 二三六 御 大筒 御小筒四口添フ 二口
 - 二〇七 御 鞍 差細濃淡緋絹二捻、手綱緋平組、鞍架、鞍袋、鞍袋一具
赤地錦、鍔袋赤地錦、鞍梅黃地唐錦裏青綾 一面
 - 二〇八 御 鏡 袋、緋綾、轆轤宮入 一面
- 以上明治四十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

○皇大神宮別宮伊佐奈彌宮御料

- 二三七 錦御鞆 箭二十隻 一腰

- 二〇九 金銅御麻笥 二口
 - 二一〇 金銅御持 二枚
 - 二一一 金銅御櫛 二基
 - 二一二 御木絡練 二基
 - 二一三 御 篋 二枚
 - 二一四 五色御吹玉 一連
- 以上明治四十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

○皇大神宮別宮瀧原竝宮御料

- 二二六 銀銅御櫛 一基
- 二二七 銀銅御麻笥 一口

二三〇 銀銅御侍

二三一 御荒宮 白葛製

以上明治四十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

一枚
一合

○皇大神宮別宮伊雜宮御料

二二六 金銅御高機 架添フ

明治四十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

一具

○皇大神宮別宮風日祈宮御料

二三三 御鞆 袋 緋練綾

明治四十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

一枚

○豐受大神宮別宮多賀宮御料

二二七 御櫛笥 櫛七枚添、袋 赤地唐錦

明治四十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

一合

○豐受大神宮別宮土宮御料

二三三 御胡錄 箭各十隻

二三四 御鞆 箭十隻

以上明治四十二年式年遷宮調進昭和四年撤下

二腰
一腰

昭和八年一月十日訂正十版印刷
昭和八年一月十五日訂正十版發行

神宮司廳所管
徵古館農業館

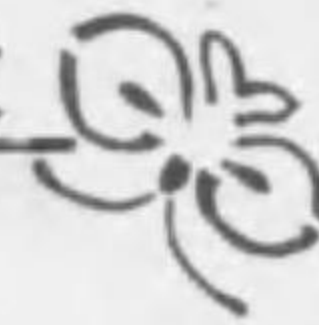
岐阜市七軒町十一番地
印刷所 西濃印刷株式會社
岐阜支店

徵古館農業館發行

徵古館陳列品略解	四六版一四〇頁解說付	寫真版挿入	一冊	三〇錢
徵古繪葉書	各輯六枚		五組	一組一〇錢
(第一輯第二輯) 風俗人形	(第三輯) 上古遺物神都關係品			
(第四輯) 金鴈古器・輿車船舶	(第五輯) 神宮寶物			
倉田山風景繪葉書	三色版四枚		一組	一〇錢
御遷宮記念繪葉書	各輯五枚(一枚原色版)		二組	一〇錢
(第一輯第二輯) 神宮撤下御物				
農業館陳列品要覽	四六版二段組一九〇頁解說附		一冊	三〇錢
即位禮大嘗祭資料陳列目錄	四六版九四頁解說附	寫真版挿入	一冊	二〇錢
革製航海圖寫真	原寸、紙包		一冊	五〇錢
伊勢新名所歌合繪卷	下卷模本桐箱入		一卷	二〇〇錢
贈位先賢遺品目錄講演要領	菊版一二三頁解說附	寫真版挿入	一冊	一・二〇錢

373
96

行發館業農館古徵



終

